

令和 6 年度

事 業 報 告 書



日本赤十字社の使命

わたしたちは、
苦しんでいる人を救いたいという思いを結集し、
いかなる状況下でも、
人間のいのちと健康、尊厳を守ります。

わたしたちの基本原則

わたしたちは、世界中の赤十字が共有する7つの基本原則にしたがって行動します。

- 人道：人間のいのちと健康、尊厳を守るために、苦痛の予防と軽減に努めます。
- 公平：いかなる差別もせず、最も助けが必要な人を優先します。
- 中立：すべての人の信頼を得て活動するため、いっさいの争いに加わりません。
- 独立：国や他の援助機関の人道活動に協力しますが、赤十字としての自主性を保ちます。
- 奉仕：利益を求めず、人を救うため、自発的に行動します。
- 単一：国内で唯一の赤十字社として、すべての人に開かれた活動を進めます。
- 世界性：世界に広がる赤十字のネットワークを生かし、互いの力を合わせて行動します。

わたしたちの決意

わたしたちは、赤十字運動の担い手として、
人道の実現のために、
利己心と闘い、無関心に陥ることなく、
人の痛みや苦しみに目を向け、
常に想像力をもって行動します。

はじめに

日本赤十字社は 2027 年（令和 9 年）に創立 150 周年を迎えます。その機運を高める取り組みの一つとして、令和 7 年 4 月から開催されている大阪・関西万国博覧会では、「人間を救うのは、人間だ。～The Power of Humanity～」をスローガンに、「国際赤十字・赤新月パビリオン」を出展しています。一人でも多くの方に、人道の理念への理解と共感を深めていただき、人道アクションにつながるきっかけになることを願っています。

令和 6 年度は、福岡県内において幸いにも大規模災害の発生はなく、救護班の出動はありませんでした。しかしながら、我が国では、近い将来、南海トラフ地震のほか大規模地震の発生が極めて高い確率で懸念されています。そのため、新たに災害対応計画を九州ブロック各県支部と連携の下、策定しました。また、研修機会の拡大や訓練の質的向上を目的として、久留米赤十字会館において本社と九州の第 6 ブロックとの共催で大規模な赤十字救護班研修会を実施しました。

国際活動では、福岡赤十字病院の看護師 2 名をバングラデシュ、タイへ派遣するなど、国際赤十字の一員としての役割を果たしています。

また、令和 6 年度は講習実施体制の強化を図るため、指導員養成に注力しました。7 日間に渡る厳しい講習に耐え抜き、赤十字救急法指導員 26 名、健康生活支援講習指導員 4 名、計 30 名の新たな指導員が誕生しました。

こうした赤十字の活動は、皆様のご理解と力強いご支援により支えられています。赤十字事業の推進に貢献された方々を顕彰するため、日本赤十字社名誉副総裁寛仁親王妃信子殿下の御臨席を賜り、令和 6 年 12 月 17 日に令和 6 年度九州八県赤十字大会を開催しました。翌 18 日には福岡県日赤紹締会第 64 回総会を開催しました。

令和 7 年度も引き続き、日本赤十字社の使命達成に向けて、各種事業に取り組んでまいります。今後もより一層のご支援・ご協力を願い申し上げます。

目 次

I 事業実施状況

1 国内災害救護	1
2 救急法等の講習	9
3 青少年赤十字	14
4 國際活動	19
5 赤十字奉仕団	21
6 活動資金の募集	26
7 広報	29
8 看護師等の養成	32
9 医療事業	34
10 血液事業	40
11 社会福祉事業	46

II 付 表

1 主な行事	51
2 支部管内施設	52
3 支部機構	53
4 支部役員名簿	54
5 支部沿革	55

I 事業実施状況

1 国内災害救護

日本赤十字社は、災害救助法や災害対策基本法などで、国や地方公共団体の救護活動に協力することが義務付けられており、赤十字の人道任務として「医療救護」「こころのケア」「救援物資の備蓄と配分」「血液製剤の供給」「義援金の受付と配分」など多岐にわたる災害救護活動を行っています。

令和6年度は、極めて高い確率で発生が懸念されている南海トラフ地震を中心とした大規模地震の災害対応計画を九州ブロック各県支部と連携の下、新たに策定しました。今後は、九州で大きな被害が予想される南海トラフ地震対応計画の実効性の検証及び、救護班の実践力向上を図るため、令和7年度から3か年計画で九州ブロック各県支部との合同訓練を行う予定です。

また、研修機会の拡大や訓練の質的向上の目的のため、本社主催で行われていた全国赤十字救護班研修会が、令和7年度から全国6つの各ブロックそれぞれでの開催に移行することとなりました。令和6年度では正式な移管前に本社と九州の第6ブロックとの共催で実施し、救護員及び指導者の能力向上に努めました。

1. 災害救護活動の体制及び整備

(1) 救護員の体制

災害発生時において被災地の医療の空白を埋めるため、迅速に救護班を派遣して被災者や傷病者を救護する体制として、県内に常備救護班を16班編成し、訓練を受けた職員108人を常備救護班員として登録しています。

常備救護班の編成状況

令和6年4月1日現在

施設名	班数	常備救護班員登録数					計
		医師	看護師長	看護師	薬剤師	主事	
福岡赤十字病院	12	12	12	24	12	24	84
今津赤十字病院	2	2	2	4	0	4	12
嘉麻赤十字病院	2	2	2	4	0	4	12
計	16	16	16	32	12	32	108

※常備救護班編成基準 医師1人・看護師長1人・看護師2人・主事（事務）2人 計6人

福岡赤十字病院の救護班のみ薬剤師1人を加えて編成しています。

(2) 救護員の訓練

赤十字の救護員として必要な基礎知識や技術を学び、災害が発生した現場において、救護活動が迅速かつ的確に行えるよう、日本赤十字社救護規則第13条に基づき、災害救護訓練を実施しています。

令和6年度は、以下のとおり救護員の育成に努めました。

ア. 支部主催訓練

訓練名	開催日	開催場所	開催方式
救護員育成訓練（共通課程）	5月13日（月）～5月24日（金）	管内施設	動画視聴形式
救護員育成訓練（総合過程）	6月12日（水）～6月13日（木）	日本赤十字社福岡県支部	実働形式
支部救護班総合訓練	10月17日（木）	日本赤十字社福岡県支部	〃

イ. 行政等主催訓練

訓練名	開催日	開催場所	開催方式
福岡県総合防災訓練	6月2日（日）	田川市、香春町	実働形式
福岡空港 航空機事故対策部分訓練	7月9日（火）	福岡空港	図上形式
福岡市災害対策本部図上訓練	11月26日（火）	福岡市役所	〃
福岡県国民保護図上訓練	1月23日（木）	福岡県庁	実働形式



避難所支援訓練



トリアージ訓練



救護所で活動する日赤救護班（福岡県総合防災訓練）

（3）本社・6ブロック共催全国赤十字救護班研修会

本研修は、これまで本社主催で東日本と西日本の2ヵ所の会場で実施されてきましたが、研修機会の拡大や訓練の質的向上を目的に、令和7年度以降、全国6つの各ブロックにて開催するよう移管されます。令和6年度は、ブロックへ移管を前に本社と共に共催で、救護員及び指導者の育成強化に努めました。

開催日：令和7年2月1日（土）～2日（日）

場 所：久留米赤十字会館

参加者：139名（内訳：受講者57名、指導スタッフ57名、オブザーバー9名、事務局16名）



発災急性期の活動について意見交流



病院支援訓練



避難所支援訓練



活動報告模擬体験

(4) 赤十字防災セミナーの実施

日本赤十字社では、人々のいのちをまもるために、地域コミュニティにおける「自助」と「共助」の力を高める「防災教育事業（通称：赤十字防災セミナー）」を展開しています。

令和6年度は、福岡県西方沖地震発生から20年の節目であり、当時被害の大きかった糸島市にて、民生委員児童委員を対象にセミナーを実施し、改めて防災・減災の意識の向上を図りました。

また、新たなカリキュラムである「おうちのキケン」や「家具安全対策ゲーム」などの実施を通じて、以下のとおり防災・減災の普及活動に努めました。

開催内容	開催回数	受講人数
災害への備え	24回	656名
災害エスノグラフィー	11回	461名
災害図上訓練	3回	102名
家具安全対策ゲーム	6回	205名
おうちのキケン	4回	120名
ひなんじよたいけん	3回	75名
その他	2回	130名
計	53回	1,749名



災害エスノグラフィー



おうちのキケン

2. 救援物資の配付及び備蓄状況

県内はもとより、隣接県等における広域災害時に備えて、支部救護倉庫、久留米赤十字会館、福岡県赤十字血液センター北九州事業所などに救援物資を備蓄しています。
令和6年度に発生した災害等に対して、次のとおり救援物資を配付しました。

ア. 地区・分区及び他県支部への配付状況

令和7年3月31日現在

毛布（枚）	福岡市城南区	10
	朝倉市	10
	田川市	20
	大分県支部	500
	計	540

緊急セット（組）	福岡市南区	10
	福岡市早良区	12
	福岡市城南区	6
	朝倉市	6
	直方市	24
	田川市	12
	川崎町	6
	計	76

タオルセット（組）	福岡市早良区	20
	福岡市城南区	20
	朝倉市	20
	直方市	20
	計	80

医薬品セット（組）	福岡市早良区	20
	朝倉市	10
	行橋市	10
	田川市	20
	みやま市	10
	川崎町	10
	計	80

タオルケット（枚）	大分県支部	300
	計	300

イ. 備蓄状況

令和 7 年 3 月 31 日現在

物資名	前年度繰越	受 入	配分数	在庫数
毛布 (枚)	16,088	0	620	15,468
緊急セット (組)	4,924	0	118	4,806
タオルセット (組)	4,403	0	423	3,980
医薬品セット (組)	1,541	0	73	1,468
タオルケット (枚)	8,870	1,000	513	9,357
安眠セット (組)	2,412	0	30	2,382

※在庫数は、地区・分区分置保管数含む

3. 災害義援金受付状況（福岡県支部受付分）

国内で甚大な被害が生じた場合に災害義援金の募集を開始し、被災地に設置される義援金配分委員会に全額を届けます。

令和 6 年度は、令和 6 年能登半島地震災害義援金をはじめとする以下の義援金を引き続き受け付けました。

令和 6 年 4 月 1 日～令和 7 年 3 月 31 日

義援金名	金 額 (円)
令和 6 年能登地方地震災害義援金	75,991,992
令和 5 年 7 月 7 日からの大雨災害義援金	7,712,447
令和 6 年 7 月 25 日からの大雨災害義援金	423,233
令和 6 年能登半島大雨災害義援金	9,293,570
令和 6 年沖縄県北部豪雨災害義援金	21,622
令和 7 年大船渡市赤崎町林野火災義援金	1,465,759

4. 臨時救護

医療救護を必要とする公共性の高い行事、式典等における傷病者の発生に備えて初期救護を行うため、救護員を派遣しています。

令和6年度は、以下のとおり管内施設の医師・看護師等を派遣しました。

ア. 臨時救護実績

No.	救護名	場所	期日	受診者数
1	第63回福岡市民の祭り 博多どんたく港まつり	福岡市役所どんたく広場 (明治通り沿い)	5月2日(木) ～5月4日(土)	3名
2	春季慰靈大祭	福岡県護国神社	5月3日(木) 5月4日(金)	0名
3	子ども体験フェスティバルふくおか2024	福岡国際センター	7月31日(水)	4名
4	福岡県緑の少年団交流集会	四王寺県民の森管理センター 英彦山青年の森	9月21日(土) 9月28日(土)	0名
5	令和6年度異年齢交流で育て! 青少年育成キャンプ	諫早青少年自然の家	8月7日(水) ～8月11日(日)	28名
6	青少年赤十字リーダーシップ・トレーニングセンター	夜須高原青少年自然の家	8月8日(木) ～8月9日(金)	6名
7	令和6年度福岡県戦没者追悼式	福岡県立福岡武道館	8月15日(木)	0名
8	在宅肢体不自由児等 「山の療育キャンプ」	福岡県立社会教育総合センター	8月20日(火) ～8月21日(水)	1名
9	インリーダー研修会	佐賀県北山少年自然の家	9月14日(土) ～9月16日(月祝)	23名
10	県民スポーツ大会 バスケットボール競技	福岡市立南体育館	9月23日(土)	2名
11	県民スポーツ大会 弓道競技	博多の森弓道場	9月24日(日)	0名
12	第29回福岡市障がい者スポーツ大会	東平尾公園 博多の森陸上競技場	9月29日(日)	0名
13	秋季慰靈大祭	福岡県護国神社	10月13日(日) ～10月14日(月祝)	0名
14	福岡県伐倒技能選手権	久留米市	11月12日(木)	0名
15	西区スポーツフェスタ2024	今津運動公園	10月27日(日)	0名
16	地下鉄フェスタ	橋本車両基地	10月27日(日)	0名
17	福岡マラソン2023	福岡市、糸島市	11月10日(日)	83名

18	令和6年度水源の森づくり学習活動	四王寺県民の森	11月24日（日）	0名
19	第29回福岡市障がい者スポーツ大会 (レクリエーション大会)	福岡市総合体育館	11月23日（土）	0名
20	九州八県赤十字大会	福岡市	12月17日（火）	0名
21	福岡県日赤紺縫会第63回総会	福岡市	12月18日（水）	0名
22	ふくおか“きずな”フェスティバル	クローバープラザ	2月16日（日）	1名
計				108名

イ. 臨時救護派遣救護員実績

施設名	医師	看護師	主事	計
福岡赤十字病院	4	27	2	33
今津赤十字病院	0	12	0	12
嘉麻赤十字病院	0	7	0	7
大寿園	0	1	0	1
やすらぎの郷	0	3	0	3
豊寿園	0	1	0	1
福岡県赤十字血液センター	0	0	0	0
日本赤十字社福岡県支部	0	0	4	4
計	4	51	6	61

2 救急法等の講習

赤十字が行う講習は、身近な人を救うためのとっさの手当や日常生活での事故防止をはじめ、乳幼児から高齢者に至るまで幅広いライフステージに応じた健康安全に関する知識や技術の普及を行っています。

令和6年度は、福岡県内の小学校で発生した窒息事故や能登半島地震の発災などの影響もあり、日常生活や災害時での救命に関する講習ニーズが高まりました。総計487回16,022人の方々に対して講習を実施しました。

また、講習実施体制の強化を図るため、救急法と健康生活支援講習の指導員養成講習を開催し、講習普及に携わる新規指導員が日赤職員、ボランティア合わせて、30人誕生しました。

さらに、当県支部と県内にある赤十字の医療・福祉施設、UR都市機構と連携し、高齢者支援や地域貢献を行う「地域包括ケア」の取り組みを進めました。

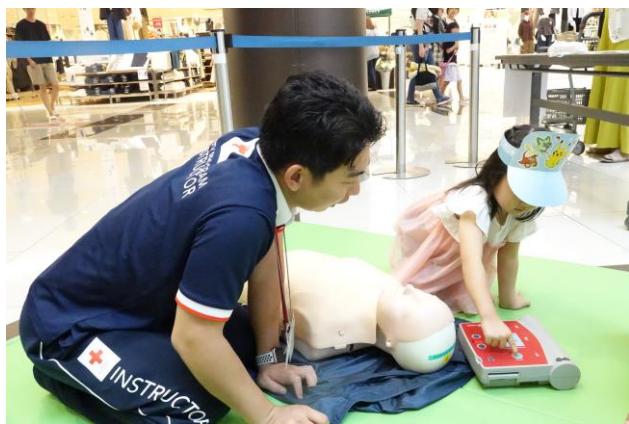
1. 講習実績（総計487回16,022人）

（1）救急法

病気やけが、災害から自分自身を守るとともに、けが人や急病人を正しく救助して医師または救急隊などに引き継ぐまでの救命手当（心肺蘇生、AEDによる電気ショック、気道異物除去等）や応急手当（急病の対応、止血の仕方、三角巾の使い方、骨折の固定方法等）の知識や技術を普及することを目的に、地域や企業、学校を中心に実施しました。

【令和6年度を含む過去5年間の実施状況】

種別		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
基礎講習	回数	3	27	37	36	35
	人数	102	429	896	940	903
救急員 養成講習	回数	0	3	19	19	13
	人数	0	28	399	442	325
短期講習	回数	77	113	162	186	201
	人数	1,864	4,587	5,634	6,505	7,004
計	回数	80	143	218	241	249
	人数	1,966	5,044	6,929	7,887	8,232



心肺蘇生と AED の説明



三角巾によるきずの手当

(2) 水上安全法

水の事故から生命を守り、泳ぎの基本と自己保全、溺者の救助、救命・応急手当等、水難救助に関する総合的な知識や技術を普及することを目的に、地域や学校を中心に実施しました。

また、児童・生徒の着衣状態で起きる水の事故を未然に防ぐため、教職員を対象とした着衣泳指導講習も実施しています。令和6年度は、福岡市教育委員会に加え、県教育委員会とも協力して講習会を開催しました。

【令和6年度を含む過去5年間の実施状況】

種別		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
救助員I 養成講習	回数	0	0	0	2	1
	人数	0	0	0	34	34
短期講習	回数	2	7	24	34	52
	人数	23	413	682	2,173	3,637
計	回数	2	7	24	36	53
	人数	23	413	682	2,207	3,671



教職員を対象とした着衣泳指導講習



浮き具を使った救助の演習

(3) 健康生活支援講習

住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを続けることができるよう、自助・互助・共助・公助をふまえて、健康の維持・増進と高齢期の自立を促す方法について学ぶことを目的に、地域や社会福祉協議会、学校を中心に実施しました。

【令和6年度を含む過去5年間の実施状況】

種 別		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
支援員 養成講習	回数	1	2	6	5	7
	人数	8	24	54	62	103
短期講習	回数	42	36	52	52	55
	人数	953	762	1,194	1,809	1,515
計	回数	43	38	58	57	62
	人数	961	786	1,248	1,871	1,618



地域における支援活動（ハンドケア実践演習）



車椅子の取り扱いの実践演習

(4) 幼児安全法

子どもが家庭や地域で健やかに育っていくよう、子どもの成長・発達に伴う事故の予防と急病の対応、万一に備えての救命・応急救手当の知識や技術を普及することを目的に、地域の子育て支援センターや保育所、幼稚園を中心に実施しました。

【令和6年度を含む過去5年間の実施状況】

種 別		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
支援員 養成講習	回数	1	2	6	5	8
	人数	8	24	54	62	84
短期講習	回数	42	36	52	52	115
	人数	953	762	1,194	1,809	2,417
計	回数	43	38	58	57	123
	人数	961	786	1,248	1,871	2,501



乳幼児の一次救命処置の実技演習



子どもの事故予防と応急手当の実技演習

2. 指導員養成講習の開催

赤十字の使命を理解し、十分な知識と技術を持った指導力のある実働的な指導員の養成を図ることを目的として、救急法並びに健康生活支援講習の指導員養成講習を日赤職員及びボランティアを対象に開催しました。

各講習で必要な知識や技術を、“人に教える立場”として、どのように伝えるのかを学び、考え、実践しながら、指導員養成講習を終えました。

救急法指導員が 26 人、健康生活支援講習指導員が 4 人、新たに誕生しました。



救急法新任指導員（26 人）



健康生活支援講習新任指導員（4 人）

3. 地域包括ケアの推進

地域における高齢者支援を目的に、当県支部及び県内赤十字施設が所在する地域の中学校区内にある小、中学校の児童・生徒を対象に施設と連携し、福祉体験学習（高齢者疑似体験、杖・アイマスク体験、車椅子体験）を実施しました。

日本赤十字社と UR 都市機構は、地域の方々の健康・安全な生活及び地域コミュニティの活性化などに向けて包括協定を締結しています。協定締結以降、初めてのイベントとして、金山団地において「かなやまつり」を実施しました。実践講座「子どもに起こりやすいケガの応急手当」を行い、団地内幼稚園の園児やご家族、団地周辺住民の方々が参加されました。



福祉体験学習として高齢者疑似体験



金山団地イベントでの実践講座

3 青少年赤十字

青少年赤十字は、将来を担う青少年に「命の大切さと人間の尊厳」を伝えるために「健康・安全」「奉仕」「国際理解・親善」の世界共通の実践目標と、「気づき、考え、実行する」という態度目標のもと、各加盟校（園）の先生が指導者となり、学校教育の現場において様々な活動を展開しています。

1. 青少年赤十字活動の活性化

（1）青少年赤十字の活動支援

子供たちの自ら学び、自ら考える力の育成に役立つ出前授業を行い、加盟校の活動を支援しました。

ア. 学校等からの依頼により職員を派遣した講習や行事

支部見学等の受入、総合的な学習の時間や加盟校の学内安全講習等において、救急法や水上安全法をはじめとした出前授業の講師派遣を行いました。

内容	対象者	回数（対象者数）	備考
加盟登録式・更新式	保・幼・小・中・高等学校 メンバー、指導者	41回（16,286名）	メンバーとしての自覚を新たにするため、毎年学校ごとに実施
救急法、水上安全法（着衣泳）、幼児安全法、健康生活支援講習（福祉体験）	保・幼・小・中・高等学校 メンバー、指導者、保護者	175回（9,006名）	救急法短期講習、水上安全法など ※加盟・未加盟校問わず掲載
青少年赤十字サポート・プログラム 防災学習や災害時に役に立つ体験、非常食体験など	小・中・高等学校メン バー、指導者、保護者	10回（1,068名）	赤十字職員をゲストティーチャーと して派遣



看護師による講話



中学校での救急法講習

イ. 青少年赤十字研究推進校指定

令和5～7年度 大野城市立月の浦小学校 （発表予定年度 令和7年度）

研究主題 「気づき」「考え」「実行する」子供の育成～振り返り活動の効果的な位置付けを通して～

ウ. 青少年赤十字活動実践校

県内の青少年赤十字加盟校（園）の中から、特色ある活動を実践している学校（園）に活動助成金（奨励金）を交付し、同校（園）の取り組みを支援すると共に、他校（園）への情報提供及び県内の青少年赤十字活動の振興拡充を図っています。

令和6年度の実践校（2校）

学校名	主題名・副題名
うきは市立山春小学校	まもるいのち ひろめるぼうさい ～救命救急についてしろう・災害がおきたときにどのような行動をとればいいだろう～
学校法人大和学園 大和青藍高等学校	防災に関する学習を通じて ～防災意識の向上と気づき、考え、行動する力を養い、学習報告等を通して、プレゼンテーション力の向上～

（2）防災教育の推進

青少年赤十字防災教育プログラム「まもるいのち ひろめるぼうさい」の活用度向上や防災教育の推進のため、学校において、防災教育を行いました。

学校等における防災教室実施状況

学校名	対象人数	学校名	対象人数
太刀洗町立大堰小学校	48	福岡市立東光小学校 福岡市立大楠小学校	60
うきは市立山春小学校	22		4年生 (講義) 74
志免町立志免西小学校	195		4年生 (倉庫見学) 74
宇美町立宇美東中学校	337		5年生 68
福岡市立原小学校	110	福岡市立曰佐小学校	80
		合計	8校 1,068



小学校での防災教室



防災食づくり

（3）青少年赤十字メンバーの育成

他校のメンバーとの交流も行いながら、赤十字やリーダーシップ等について学ぶことができる研修会や国際交流事業を行いました。

ア. 本社主催

行事の名称	実施日	対象	内容	場所	参加者数
青少年赤十字スタディー・センター	3月22日～26日	高校生	リーダーの養成を図るためのプログラム。 社会的包摶に関する体験学習	東照館	当県支部メンバー2名

イ. 支部主催

行事の名称	実施日	対象	内容	場所または開催形態	参加者数
第1回高校連絡協議会	6月15日	高校生	・学校紹介、活動紹介 ・スタディー・プログラム参加報告 ・今後の活動に関する全体討議	当県支部	メンバー 25名 指導者 4名
高校連絡協議会総会	8月24日	高校生	・規約、スローガンの確認 ・役員改選、新役員挨拶 ・今年度の活動に関する協議 ・救急法（搬送）	当県支部	メンバー 20名 指導者 4名
リーダーシップ・トレーニング・センター	8月8日～9日	小学生 中学生 高校生	・赤十字に関する学習 ・ワークショップ ・救急法等	国立夜須高原 青少年自然の家	メンバー 67名 指導スタッフ 17名 引率等教員 3名 賛助奉仕団 8名 青年奉仕団 5名
第2回高校連絡協議会 全国学生献血クリスマス キャンペーン2024	12月15日	高校生	・献血についての学習 ・献血推進活動の準備品作成 ・全国学生クリスマス献血キャンペーン	当県支部	メンバー 35名 指導者 4名
高校連絡協議会年度末集会	3月8日	高校生	・卒業生を送る会 ・年度の活動報告 ・令和6年能登半島地震災害義援金街頭募金	当県支部 博多駅前	メンバー 35名 指導者 7名



リーダーシップ・トレーニング・センター



高校連絡協議会（献血呼びかけ）

ウ. 国際交流事業

青少年赤十字の実践目標の1つである「国際理解・親善」の一環として、姉妹協定を締結している大韓赤十字社釜山広域市支社 RCY メンバーと毎年交互に訪問・受入を実施しています。

令和6年度は、11年ぶりに当県支部 JRC メンバーを派遣し、同支社 RCY メンバー宅でホームステイなどを経験しました。

期間	派遣場所	派遣人数
令和6年7月26日(金)～29日(月)	大韓赤十字社釜山広域市支社	7名



対面式での自己紹介



ホームステイの様子



お別れ夕食で連絡先を交換する児童生徒



大韓赤十字釜山広域市支社での集合写真

(4) 青少年赤十字加盟校から寄せられた義援金・救援金

青少年赤十字の実践目標である「健康・安全」「奉仕」「国際理解・親善」の一環として、多くの加盟校で、相次ぐ自然災害のための義援金・救援金の募金活動に取り組まれ、たくさんの心温まる寄付をいただきました。令和6年度の青少年赤十字加盟校からの寄託金合計額は、251,390円となりました。

No.	義援金・救援金等名称	学校名
1	赤十字活動資金	久留米市立川会小学校
		大野城市立月の浦小学校
		大和青藍高等学校
		朝倉市立蟠城小学校
2	令和6年能登地震災害義援金	宗像市立地島小学校
		朝倉市立蟠城小学校
		福岡県立柏陵高等学校
		福岡県立柏陵高等学校第3学年
		朝倉市立蟠城小学校
		大野城市立大城小学校
		粕屋町立粕屋西小学校
3	令和6年9月能登半島大雨災害義援金	粕屋町立仲原小学校
		粕屋町立仲原小学校
4	令和6年度沖縄県北部豪雨災害義援金	粕屋町立粕屋西小学校
5	ウクライナ人道危機救援金	筑紫野市立天拝小学校
合 計		251,390円

(5) 青少年赤十字指導者の養成講習会等の開催

各加盟校（園）においては、教師が指導者となって、児童・生徒とともに活動に取り組みます。そのため、活動への理解がより深まるように指導者を対象とした各種の講習会を開催しています。令和6年度は、長崎県にて開催された九州ブロック青少年赤十字指導者養成講習会に参加したほか、県青少年赤十字研究会を集合形式で開催しました。

実施日	講習会等の名称	参加者数
8月19日～20日	福岡県赤十字指導者養成講習会	24
8月19日～20日	九州ブロック青少年赤十字指導者養成講習会	2
2月17日	福岡県青少年赤十字研究会	26

2. 青少年赤十字の普及

(1) 積極的な加盟促進

加盟促進については、新規加盟勧奨活動を継続的に行った結果、令和6年度は保育園2園、小学校5校・中学校2校、高等学校1校、合わせて10校・園が新たに加盟し、県内の加盟校は421校となりました。

令和7年3月31日現在

教育行政区分 ※但、私学を含む	市・区・郡	保育・幼稚園	認定こども園	小学校	中学校 (義務教育学校 合)	義務教育 学校	高等学校	特別支援 学校	通信制	各種学校	合計
		園数(園)	学校数(校)	学校数(校)	学校数(校)	学校数(校)	学校数(校)	学校数(校)	学校数(校)	学校数(校)	学校数(校)
福岡市教育委員会	東区・博多区・中央区・南区・城南区・早良区・西区	5	1	77	7	0	19	5	1	1	116
北九州市教育委員会	門司区・小倉北区・小倉南区・若松区・八幡東区・八幡西区・戸畠区	10	0	35	11	0	4	0	0	0	60
福岡教育事務所	春日市・大野城市・筑紫野市・太宰府市・那珂川市・糸島市・古賀市・宗像市・福津市・糟屋郡	3	2	57	17	0	6	0	0	0	85
北九州教育事務所	中間市・直方市・宮若市・遠賀郡・鞍手郡	7	0	22	6	0	3	0	0	0	38
北筑後教育事務所	朝倉市・久留米市・うきは市・朝倉郡・三井郡	0	0	24	2	0	0	0	0	0	26
南筑後教育事務所	大川市・八女市・筑後市・柳川市・みやま市・大牟田市・三瀬郡	0	0	40	3	2	2	0	0	0	47
筑豊教育事務所	飯塚市・嘉麻市・田川市・田川郡	4	0	26	8	0	3	0	0	0	41
京築教育事務所	行橋市・豊前市・京都郡	0	0	0	8	0	0	0	0	0	8
合計	28市・8郡(21町村)	29	3	281	62	2	37	5	1	1	421

※加盟の形態は、全校加盟・学年加盟・学級加盟・クラブ加盟があります。

令和6年度新規加盟登録校

くぼこども園
みやま市立南小学校
福岡市立奈多小学校
杉森高等学校
福岡市立城原小学校

社会福祉法人恵智会 山野保育園
福岡市立西新小学校
福岡市立千代小学校
春日市立春日北中学校
春日市立春日西中学校

(以上 10校・園)

4 国際活動

赤十字の国際活動は、赤十字国際委員会及び国際赤十字・赤新月社連盟の連携のもと、191の国と地域に拡がる赤十字のネットワークにより「緊急救援」「復興支援」「開発協力」等を行っています。

令和6年度は、引き続き各国赤十字社と国際赤十字・赤新月社連盟が実施する「ウクライナ人道危機救援金」の募集をはじめとした救援・復興活動を支援するための人道危機等救援金や災害救援金の募集を行いました。

また、国際赤十字・赤新月社連盟からの依頼により、バングラデシュ南部避難民保健医療支援事業及びタイ・カンボジア・ラオス・ベトナム保健支援事業の活動のため、福岡赤十字病院から看護師2名を派遣しました。

1. 国際活動の参加

(1) 国際救援金受付

日本赤十字社では、国外において突然に発生した大規模な自然災害や武力紛争等の人道危機などに支援する救援金を募集しました。

特に、令和6年4月3日（水）台湾の東部沖沿岸で発生したマグニチュード7.4の地震により、花蓮県では大規模な建物の損壊被害やトンネル付近での大規模な土砂崩れや落石などの被害が生じ、多数の死傷者が報告されたことから、日本赤十字社では台湾赤十字組織が行う救援・復興支援活動を支援するため「2024年台湾東部沖地震救援金」の募集を開始しました。



出動準備を進める災害対応チーム

©台湾赤十字組織



行方不明者の捜索活動に携わる災害対応チーム

©台湾赤十字組織

救援金名	金額(円)
ウクライナ人道危機救援金	2,987,012
アフガニスタン人道危機救援金	51,864
イスラエル・ガザ人道危機救援金	144,066
中東人道危機救援金	31,833

バングラデシュ南部避難民救援金	30,951
2024年台湾東部沖地震救援金	4,237,198
レバノン人道危機救援金	13,988
無指定海外救援金	100,000
「NHK海外たすけあい」寄付金	15,455,653

(2) 国際救援・開発協力要員派遣事業

本社と連携のもと、国際赤十字が行う救援・開発プロジェクトに対して、国際救援・開発協力要員を派遣しました。

ア. バングラデシュ南部避難民保健医療支援事業

バングラデシュ赤新月社、国際赤十字・赤新月社連盟、その他支援赤十字社と連携し、地域に根差した健康改善支援活動の質の向上や維持等を目的に、現地にて同活動における達成点や課題の抽出、整理を行い、今後の事業全体の方向性を協議する活動に参加しました。

派遣先：バングラデシュ人民共和国

派遣者：福岡赤十字病院 看護師長 橋本 香織

派遣期間：令和6年5月20日（月）～令和6年6月10日（月）

令和6年7月15日（月）～令和6年12月31日（火）

令和7年1月12日（日）～令和7年1月31日（金）



イ. 国際赤十字・赤新月社連盟タイ・カンボジア・ラオス・ベトナム保健支援事業

国際赤十字・赤新月社連盟タイ・カンボジア・ラオス・ベトナム4カ国の赤十字社への保健戦略等の策定支援、各種事業の管理、連盟等が行う研修や会議の調整・運営、その他保健分野での支援・助言と企画・調整を行っています。

派遣先：タイ王国

派遣者：福岡赤十字病院 看護師 水谷 彩

派遣期間：令和6年9月2日（月）～令和7年9月1日（月）予定

5 赤十字奉仕団

赤十字奉仕団は、赤十字の使命とする人道的な諸活動を実践しようとする人々が集まって結成されたボランティア組織です。地域に根差した活動を行う「地域奉仕団」、専門知識や技術を活かした「特殊奉仕団」、そして若い力と行動力で社会に貢献する「青年奉仕団」の3つがあります。

1. 奉仕団の活動状況

(1) 地域赤十字奉仕団

ア. 地域赤十字奉仕団員数（令和6年度）

奉仕団数 (団)	団員数(人)		
	男	女	計
25	1,263	2,738	4,001

イ. 活動状況

(ア) 防災に関する活動：10団

地域で開催される防災訓練に参加し、炊き出しを行い、災害時に備えた活動をしました。

(イ) 地域福祉に関する活動：12団

清掃活動のほか、独居老人宅を訪問などの住民福祉向上のための、心のこもった活動を実施しました。

(ウ) 青少年赤十字の普及、育成に関する活動：11団

青少年赤十字は、保育園・幼稚園、小学校・中学校・高等学校の教育の場で展開されており、奉仕団においても、青少年の健全育成を目的とした学校行事（青少年赤十字加盟登録式・入学式・卒業式等）への参加、普及活動、登校時の挨拶運動や防犯活動を推進しています。

(エ) 救急法、健康生活支援講習等講習普及に関する活動：11団

事故を防止し、緊急時に必要な手当ができるように、正しい知識と技術を習得する救急法講習会や健康管理、地域での高齢者支援等を学ぶ健康生活支援講習を開催し、団員自身が研修会等で受講するとともに、地域住民への普及に努めました。

(オ) 献血推進に関する活動：8団

地域や街頭で実施する献血活動に際し、献血への協力呼びかけ等を行いました。

(カ) 義援金及び救援金への募金：5団

「令和6年能登半島地震義援金」への募金活動を行いました。

(キ) 赤十字会員増強に関する活動：9団

地域に根差した活動の一環として、活動資金の募集にもご協力いただきました。

区分	奉仕団による実績（A）	地区分区が募集する活動資金実績（B）	奉仕団の募集実績比率（A/B）
令和5年度	14,670,691円	350,972,289円	4.2%
令和6年度	13,701,048円	329,770,946円	4.2%

（2）青年奉仕団

ア. 福岡県青年赤十字奉仕団

平成31年3月、福岡県青少年赤十字高校連絡協議会卒業生メンバーを中心に再結成された奉仕団です。令和6年度は、福岡県青少年赤十字リーダーシップ・トレーニング・センター、高校連絡協議会などにボランティアとして参加し、青少年赤十字活動をサポートしました。

イ. 日本赤十字九州国際看護大学学生奉仕団

日本赤十字九州国際看護大学学生奉仕団は、同大学のボランティアサークルで構成されています。

福岡県の青年赤十字奉仕団と協働で、県内4ヶ所の登山道に設置されている救急箱の薬品交換を行うなど活動を行っています。

（3）特殊奉仕団

ア. 日本赤十字社福岡県支部防災ボランティア会

防災ボランティア会は、個人単位で活動に参加していたボランティアを組織化し、設立された防災ボランティア団体です。地域住民に向けた防災セミナーの実施や県防災訓練でのボランティアセンター運営訓練に協力するなど防災意識の向上や知識の普及活動を行っています。

イ. 福岡赤十字病院奉仕団

福岡赤十字病院の外来患者の受付案内、車いす補助等、心のこもった奉仕団活動を行いました。

ウ. 赤十字看護（介護）奉仕団 10団

赤十字家庭看護法（現・健康生活支援講習）の講習修了者をもって組織された赤十字看護（介護）奉仕団です。各地域の福祉施設において、移動介助やシーツ交換等を行いました。

エ. 福岡県いやしのケア赤十字奉仕団「なごみ」

新型コロナウイルス感染症の影響により一時活動が休止となっていましたが、令和6年度から「献血ルームおっしゃい博多」でハンドマッサージの活動を再開し、献血者に対し心温まる奉仕活動を実施しています。

オ. 安全奉仕団

赤十字救急法や水上安全法指導員の資格を有するボランティアで組織され、人々の安全と健康を守るために救急法や水上安全法などの講習を行い、普及活動に努めています。

カ. 福岡県青少年赤十字賛助奉仕団

青少年赤十字活動の普及発展及び加盟促進を目的として、青少年赤十字指導者協議会のOBで結成された奉仕団です。リーダーシップ・トレーニング・センターの運営支援や加盟校への情報誌発送作業を行いました。

キ. 福岡県柔道整復師会赤十字奉仕団

打撲、捻挫、挫傷（筋、腱の損傷）、骨折、脱臼などの施術を行う柔道整復師の免許を有する方々によって、災害救護や保健衛生等に関する奉仕活動を目的に結成された奉仕団です。令和2年度から団員が運営する施術所に募金箱等を設置し、集められた募金を活動資金として寄付し、当県支部の支援活動を行っています。

ク. 特別養護老人ホーム大寿園赤十字奉仕団「むくの木」

大寿園で活動を行っていた個々のボランティア同士が結束することによって更なる活動の充実を目指すことを目的として結成されました。業務補助として利用者の外出補助等を行いました。

ケ. 福岡県赤十字無線奉仕団

無線奉仕団は、アマチュア無線の愛好家で組織された奉仕団で、アマチュア無線の技術と経験を活かして活動を行っています。当県支部と全国の支部が災害時に円滑に無線通信ができるよう通信訓練を行いました。また、本県防災ボランティア会の団員を対象とした無線機器の取り扱い訓練を行いました。

コ. 福岡赤十字病院音楽奉仕団

福岡赤十字病院の患者さんやそのご家族の方々等に、病院で少しでも気持ちよく過ごしていただきため、音楽の楽しさをお届けするコンサートの企画・運営を行うために結成された奉仕団です。トワイライトコンサートを開催し、患者さんや地域住民の方に音楽のいやしを提供し、大好評でした。

(4) ボランティア活動充実のための取組

ア. ボランティア DAY2024 における活動：20 団

例年、5月8日の世界赤十字デーを中心に清掃活動等地域のニーズにあった活動を実施しています。地域のニーズにあわせた活動を実施しました。

イ. 本社・ブロック主催研修

地域に根ざした存在である赤十字ボランティアが主体的に赤十字事業に参画し、世代や分野を超えて連携し、活動を実施していくための研修会に参加しました。

実施日	行事名	場 所	参加者数
8月24日～26日	赤十字ボランティア・リーダー研修会	本社	1名
1月25日～27日	赤十字奉仕団指導講師研修会	本社	1名

ウ. 赤十字奉仕団研修会

地域・特殊・青年赤十字奉仕団合同で研修会を実施しました。炊き出し訓練や非常食体験、能登半島地震の活動報告を行い、赤十字奉仕団としての理解を深めていただきました。



炊き出し釜を使用し非常食体験



能登半島地震の活動報告会

2. 大韓赤十字社釜山広域市支社奉社会員との交歓研修会

昭和 50 年 8 月大韓赤十字社釜山広域市支社と本県支部は姉妹協定を締結し、親善友好を深めています。令和 6 年度は、5 月 21 日～24 日までの 4 日間、同支社の奉社会員等 7 名を福岡県へ招聘し、交歓研修会を行ったほか、県内赤十字施設の視察研修や福岡赤十字病院奉仕団との交流など相互理解を深めました。



大韓赤十字奉仕団と交流



救護倉庫の視察

特殊赤十字奉仕団/青年赤十字奉仕団結成状況

区分	奉 仕 団 名	結成年月日	委員長名	団員数 (人)	
防災ボランティア	日本赤十字社福岡県支部 防災ボランティア会	H25. 7. 27	平山光典	23	
病院奉仕団	福岡赤十字病院奉仕団	S59. 10. 9	池田政子	24	
看護(介護)奉仕団	篠栗町赤十字老人看護奉仕団 「ふれあい会」	S62. 2. 27	廣瀬厚子	35	
	浮羽町赤十字老人看護奉仕団 「あいの会」	H3. 9. 12	渕上正子	52	
	直方市赤十字老人看護奉仕団 「胞子の会」	H4. 8. 18	古賀章子	24	
	北九州赤十字看護奉仕団 「じゅんの会」	H9. 7. 9	国島ふさ子	12	
	福岡赤十字介護奉仕団 「ひまわりの会」	H9. 7. 16	吹野正義	3	
	志免町赤十字介護奉仕団 「ふきのとう」	H10. 4. 15	財部美佐子	17	
	川崎町赤十字介護奉仕団 「ぎんなんの会」	H12. 10. 16	松岡久代	24	
	今津赤十字病院介護奉仕団 「しおさい」	H14. 3. 23	山本育子	7	
	久留米赤十字介護奉仕団 「みやびな会」	H15. 4. 16	松嶋恵美子	3	
	嘉麻赤十字介護奉仕団 「サルビアの会」	H15. 4. 19	松岡良子	5	
いやしのケア奉仕団	福岡県いやしのケア 赤十字奉仕団「なごみ」	H10. 6. 15	津田和美	22	
安全奉仕団	救急法普及委員会	S45. 4. 1	佐藤茂夫	54	
	水上安全法普及委員会	S45. 4. 1	中村成也	57	
賛助奉仕団	福岡県青少年赤十字賛助奉仕団	H19. 6. 1	三亀幹治	42	
柔道整復師会奉仕団	福岡県柔道整復師会赤十字奉仕団	H21. 4. 1	塩川哲也	625	
赤十字奉仕団	大寿園赤十字奉仕団「むくの木」	H26. 3. 10	南嘉子	12	
無線奉仕団	福岡県無線赤十字奉仕団	H26. 4. 11	橋爪兼続	20	
芸能奉仕団	福岡赤十字病院音楽奉仕団	H31. 3. 29	寺坂禮治	13	
青年奉仕団	日本赤十字九州国際看護大学 学生奉仕団	H14. 5. 27	古莊凜	30	
	福岡県青年赤十字奉仕団	H31. 3. 29	植松香恋	23	
計		22団体		1,127	

6 活動資金の募集

当県支部が実施している様々な赤十字活動は、毎年、県民の皆様から寄せられる活動資金(寄付金等)によって行っています。

活動資金の募集の担い手は、地区・分区を通じた地域の募集奉仕者の方々による直接戸別訪問や町内会、自治会などを通じて地域にお住まいの多くの方々の善意のご協力によるものです。

令和6年度も、遺贈・相続財産等の高額寄付のほか、会員の皆様から多くのご協力をいただきました。

また、会員の増強と赤十字思想の普及を図り、今後一層社業の進展を期すための「全国赤十字大会」が、日本赤十字社名誉総裁皇后陛下及び名誉副総裁各妃殿下の御臨席を賜り、開催されました。その他、名誉副総裁寛仁親王妃信子殿下の御臨席を賜り、九州八県赤十字大会（福岡県）、福岡県日赤紺綏会第64回総会を開催しました。

1. 個人会員と活動資金の募集

例年、地区・分区管内の赤十字奉仕者（協賛委員など）、自治会・町内会においてお世話をいただいている皆さまのご協力を得て、県民の皆様に会員制度の周知を図るとともに、赤十字活動に関する理解促進をお願いしております。令和6年度は地区・分区を通じたご協力が厳しい状況であった一方、年々普及度が上がり利便性の高いクレジットカードによる活動資金の協力が増加しました。

また、福岡県日赤紺綏会第64回総会を開催し、紺綏会会員のご協力を得て、多くの高額協力者による新規会員の勧誘とご加入、既会員の再協力等によるご協力をいただきました。今年度は地区・分区を通じた協力が減少傾向にある中、高額寄付の協力をいただいたことにより、赤十字活動資金の募集実績は目標額を上回るご協力をいただきました。

2. 法人会員と活動資金の募集

毎年、法人会員にダイレクトメールによる活動資金のご協力を依頼しています。これに併せて支部内に特別勧奨班を組織し、主に未協力の法人会員を訪問し、活動資金の協力を直接依頼する「法人勧奨」に取り組んでいます。

新規法人会員の開拓については、（公財）福岡県中小企業振興センターと連携を図り、所属会員の皆様へ活動資金募集用パンフレットをご案内するなど、より多くの法人が赤十字の取り組んでいる人道支援活動に共感いただけるよう周知を行いました。また、これまでに赤十字へのご協力が多い業種である建築・不動産・医療関係の法人に重点的に協力依頼をかけるなど、ダイレクトメールの送付先の拡大を図っています。

また、福岡県日赤紺綏会と地区・分区の連携を図り、多くの法人に活動資金のご協力をいただきました。

その他、企業・団体の持続可能な開発目標（SDGs）への一環として組み込んでいただけるよう、チャリティボックス（募金箱）や支援型自動販売機の設置、赤十字支援マークを活用した赤十字への支援活動（寄付商品）など、様々なメニューをご提案しています。ダイレクトメールでのお知らせや法人勧奨で訪問した際にご説明するなど、赤十字支援の裾野を広げる周知・広報活動に取り組みました。

3. 活動資金募集実績

(1) 活動資金募集実績（一般・法人）

目標額(円)		実績額(円)	件数	達成率(%)	計	達成率(%)
500,000,000	一般	425,000,000	427,934,525	6,208	100.3	519,410,611
	法人	75,000,000	91,476,086	1,251	124.2	

(2) 活動資金募集実績（地区・支部）

目標額(円)		実績額(円)	達成率(%)	計	達成率(%)
500,000,000	地区	440,000,000	355,995,286	84.3	519,410,611
	支部	60,000,000	163,415,325	272.4	

(3) 高額活動資金実績（1件50万円以上）

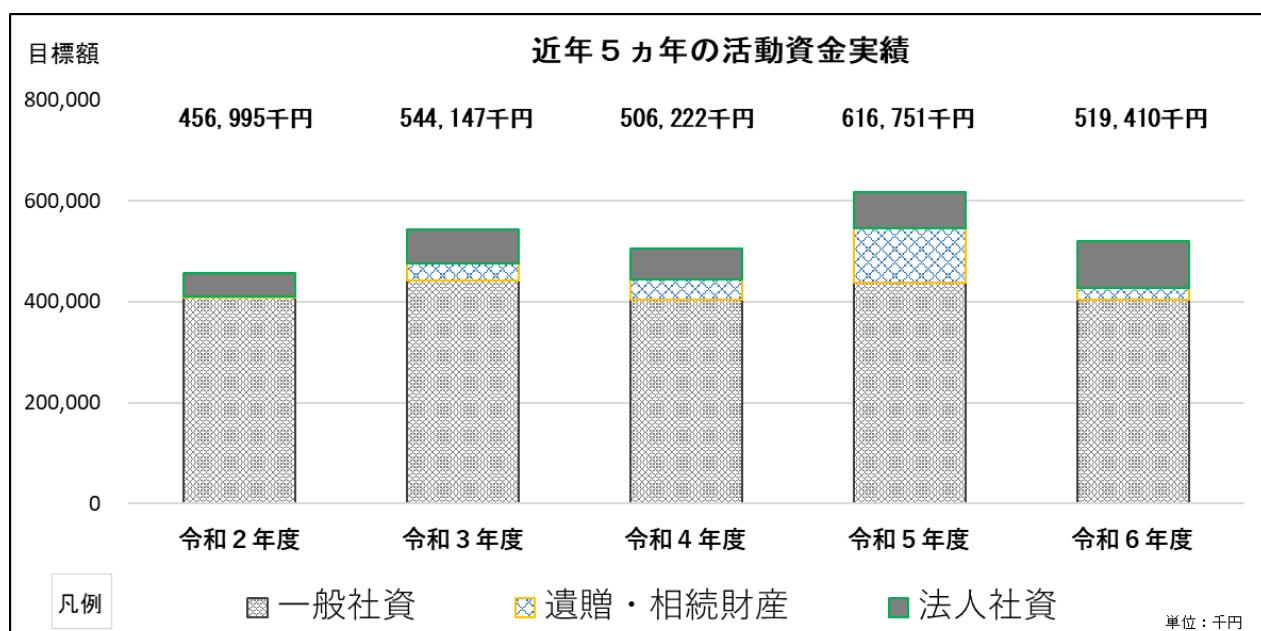
実績額(円)	内訳(円)		件数	合計件数
163,182,338	一般	100,406,238	71	105
	法人	62,776,100	34	

※一般社資実績額に遺贈3件（23,335,238円）、相続財産寄付6件（10,840,000円）を含む。

(4) 遺贈・相続財産寄付実績

遺贈		相続財産寄付		計	件数
件数	実績額(円)	件数	実績額(円)		
3	23,335,238	6	10,840,000	34,175,238	7

(5) 赤十字活動資金実績の推移（5年間）



(6) 赤十字会員数（一般・法人）

令和7年3月31日現在

会員数（計）	一般会員	法人会員
4,468	3,880	588

4. 募金箱、寄付金付き商品及び寄付金付自動販売機による活動資金募集実績

令和6年度における企業・団体等の社会貢献事業（CSR活動）・持続可能な開発目標（SDGs）達成への取り組みとして、当県支部は寄付金付自動販売機設置の推進を図るとともに、寄付金付き商品による赤十字活動資金への協力を促進しました。今後とも企業団体等が検討する社会貢献活動の一環として、赤十字活動への理解と協力が得られるよう、連携を強化していきます。

（1）チャリティ募金箱による活動資金募集実績

団体名	募金箱設置数	実績額(円)	摘要
公益社団法人 福岡県柔道整復師会	58箇所	136,968	
福岡県内農業協同組合	9箇所	149,819	9単協内に募金箱設置
有限会社 直方メディカルサービス	14箇所	76,458	
その他		513,769	
計		877,014	

（2）寄付付き商品による活動資金募集実績

団体名	期間	実績額(円)	摘要
福岡ソフトバンクホークス 株式会社	4月9日～1月4日	1,075,100	ファイト！九州タカラボイント募金
日本ハムマーケティング 株式会社	11月1日～1月31日	11,840	お歳暮ギフトの売上的一部
ブックオフコーポレーション 株式会社	4月1日～3月31日	9,002	本などの買取金額
計		1,095,942	

（3）寄付付き自動販売機による活動資金募集実績

寄付金付き自動販売機設置台数 28台、寄付額 1,439,307円（令和7年3月31日現在）

7 広 報

赤十字の使命や活動を一人でも多くの方々に理解していただくため、様々な広報活動を開きました。

外部団体へのイベントに積極的に参加するほか、当県支部主催のイベントを実施し、支部の活動を幅広い層へPRすることに努めました。

令和6年度は、福岡県西方沖地震発生から20年の節目にあたるため、当時の当県支部の活動紹介や日頃からの備えの再認識につながる情報発信を行いました。

1. 赤十字運動月間の取り組み

(1) レッドライトアッププロジェクトの実施

令和6年度で9回目を迎える日本赤十字社の全社的プロジェクトで、「人道」の歴史に思いをはせるとともに、理解を深めていただくことを目的とし、各都道府県のシンボルとなる歴史的建造物やランドマークを赤くライトアップします。

令和6年度は、「福岡市赤煉瓦文化館」「旧福岡県公会堂貴賓館」「三池炭鉱宮原坑」の県内3か所で実施しました。

(2) 福岡市天神地区のポスター広告等を出稿

令和6年度より、活動資金の募集に合わせて、活動実施場所である西鉄福岡（天神）駅コンコースにポスター広告を掲示し、より視覚的に不特定多数の方々にアプローチをかける広報展開を行いました。



レッドライトプロジェクトの実施
(旧福岡県公会堂貴賓館)



福岡(天神)駅 コンコースフラッグ

2. 広報資材を活用したイベントの開催

各市区町村や外部団体主催の市民参加型イベント内で、赤十字事業紹介パネルや救援物資などを展示することで、赤十字活動を理解していただけるようPRを行いました。

特に、令和7年3月20日は福岡県西方沖地震発生から20年ということから、県庁でパネル展示を行い、マスメディアからの取材を積極的に受け入れながら発信しました。

また、当県支部主催の広報啓発イベントを実施し、幅広い層に振り向いていただけるよう福岡県内で知名度のあるキャラクターを活用したステージイベント等を行いました。



支部主催広報啓発イベントの実施
(救急フェスティバル)



福岡県西方沖地震 あの日から20年
県庁でのパネル展示



外部団体主催イベントの様子
(救急フェスティバル)



各市区町村主催イベントの様子
(大野城市ふくしフェスティバル)

3. マスメディアとの連携

地元放送局とタイアップし、災害時の救護活動や救急法等の講習などの赤十字活動を取り上げてもらうことで、防災・減災意識の向上を図るとともに、日本赤十字社の認知度向上に努めました。

主な内容

- ア 赤十字×KBC 防災出前授業の実施（テレビ収録）
- イ 赤十字事業についての紹介（テレビ中継、ラジオ収録、インターネット）
- ウ 救急法等の講習内容について情報番組での活動紹介（テレビ収録）
- エ 年間を通した福岡県支部の活動についての配信（インターネットニュース）
- オ イベント開催の告知（テレビ生出演 30秒PR）



赤十字×KBC 防災出前授業



救急法等の講習内容についての紹介
(テレビ収録)

4. 広報資材の配布等

(1) 活動資金募集チラシなど

地区分区を通じて、広報資材を各家庭やボランティアの方々に次のとおり配布しました。

配布資材

・活動資金募集チラシ	538,190 部
・リーフレット	4,735 部
・赤十字会員募集のしおり	23,505 部
・ポスター（B2、B3、A3、A4）	7,823 部

(2) 赤十字新聞

本社が毎月1日に発行する赤十字新聞を、県内の全地区分区および赤十字関係者へ毎月約3,000部配布しました。

(3) ソーシャルメディアを活用した情報発信

当県支部の活動やイベント情報等をより多くの方々にリアルタイムでお届けできるよう、既存で運用をしているX(旧Twitter)の他、新たにInstagram及びYouTubeの公式アカウントを開設し、発信を行いました。

8 看護師等の養成

日本赤十字社が行う看護師養成は、130 年以上にわたる長い歴史と伝統を持つ重要な事業であり、災害時に活躍できる看護師を育成しています。全国には 9 つの専門学校のほか、学校法人日本赤十字学園が開設する 6 つの看護大学があり、その一つが日本赤十字九州国際看護大学です。

大学には、学部および大学院研究科（修士課程・博士課程）を合わせて約 460 名の学生が在籍しており、これまでに約 2,300 名の看護職者を輩出しています。授業では、シミュレーション教育や VR、模擬カルテなどを活用した体験型学習を導入し、学生の主体的な学びをサポートしています。

今後も、看護に関する幅広い知識と高度な技術能力を備え、赤十字の理念である「人間のいのちと健康、尊厳を守る」担い手として、地域社会に貢献し、国際的に活躍できる人材の育成に取り組んでいきます。

日本赤十字九州国際看護大学における赤十字看護師の養成

ア. 卒業生・修了生の進路状況

赤十字の基本理念である「人道」を基調としながら、災害救護活動、国際救援活動など社会に貢献するとともに、国や文化の枠を超えて人々の健康や福祉向上のための高度な看護技術と国際性を兼備えた人材を養成しています。

令和 6 年度、学部においては 116 人の卒業生を、大学院においては修了生 11 人を、社会に送り出しました。



看護学部 卒業生 進路状況

卒業生数		116
内 訳	赤十字施設就職者数	52 (44.8%)
	赤十字以外就職者数	57 (49.1%)
	進 学 者 数	3 (2.6%)
	そ の 他	4 (3.5%)

() 卒業生全体に占める対象者の割合

大学院 修了生 進路状況

修了生数		11
内 訳	医療機関就職者数	10 (90.9%)
	(うち赤十字施設)	2 (18.2%)
	教育機関就職者数	1 (9.1%)
	そ の 他	0 (0.0%)

() 修了生全体に占める対象者の割合

イ. 赤十字特別推薦型選抜の実施

優秀な救護看護師を養成・確保するため、日本赤十字九州国際看護大学学校推薦型選抜の赤十字特別推薦型選抜にあたり、毎年1名を選考し、奨学金として年間60万円を貸与しています。

なお、本奨学金には返還免除となる要件があります。

学 年	1 年 生	2 年 生	3 年 生	4 年 生	計
支部長推薦者数	1	1	1	1	4

ウ. 効果的な実習に向けた取組み

ネットワーク環境の安定と強化のため令和5年度に行った学内高速無線LANの再整備工事により、DX計画に沿った教育研究環境が着実に整備され、学生の学びを支えています。近年、シミュレーション機器を活用したアクティブラーニングの需要が高まっており、本学もCALL教室として使用していた教室を用途変更し、新たに実習室4として整備しました。配置したシミュレーターを活用することで、アクティブラーニングがより活発に行えるようになり、学生の学修環境が一層充実しました。

また、開学して初めて実習服をリニューアルしました。医療従事者のユニフォームの形や生地は時代に合わせて進化しています。在学生たちと教員とで何度も話し合い、「ジェンダーレス」「着心地がよく動きやすい」「速乾で洗濯が楽になる」「看護学生らしさ」をコンセプトに、試着を重ね細部までチェックしてオリジナルの実習服が完成しました。新しいデザインの実習服を着用し、援助技術を繰り返し学び、福岡赤十字病院をはじめとする医療機関での看護学実習に臨んでいます。



リニューアルした実習服

エ. 社会連携・社会貢献活動

社会連携・社会貢献活動として、年間活動計画のもと、地域社会との連携強化に向けて活動を実施しています。具体的には、地域住民への学習の場の提供として「クロスカレッジ公開講座」を、令和3年度より継続して開催しています。

また、令和6年度は宗像市と共同で「未来創造プロジェクト～地域住民の方が運動習慣を身につけるきっかけづくり～」を実施しました。このプロジェクトは、地域住民の健康意識の向上と運動習慣の定着を目的とした取り組みであり、その一環として、



企業祭にて健康応援イベントを出展しました。イベント当日は、通常の身体測定に加えて、筋肉量や体脂肪量といった体組成の測定を行いました。さらに、握力測定や立ち上がりテストなど、運動機能を評価する項目も取り入れ、地域住民の健康への意識づくりに貢献することができました。

9 医療事業

赤十字病院は、「博愛・奉仕・平等」の理念のもと、地域に根差した中核病院として、質の高い医療を提供しています。全国で 91 の医療施設を運営し、グループのスケールメリットを生かした経営資源の有効活用など、県内の各赤十字医療施設においてもさらなる経営効率化に努め、地域住民のニーズや期待にお応えできるよう安定した経営基盤の確立を目指しています。

また、バングラデッシュやタイなどへの国際救援活動として看護師の派遣や、各病院と地域との連携の強化を図り、地域包括ケアシステムの構築を推進するなど国内外で幅広く活動しました。

1. 病院の事業概要

(1) 福岡赤十字病院

福岡市内及び近郊における基幹病院として、救急医療や高齢者医療及び予防医療を積極的に行うとともに、赤十字の使命である救援・救護活動においても、福岡県支部との連携を密にし、災害時に備えた体制の強化に努めました。

診療面では、福岡県指定の第二種感染症病床 2 床を含む、病床数 511 床を有し、24 時間 365 日「断らない医療」を基本に患者受入れを行っております。

当院は地域医療支援病院に指定されており、地域の基幹病院として一般診療・救急医療体制を維持・継続してきました。また、設備面では令和 7 年 3 月に、「血管造影撮影装置」を更新したことで検査の安全性や効率性、画像の鮮明度が向上し、より質の高い医療を提供しています。

予防医療では、人間ドック健診センターを院内に設置し、人間ドック並びに生活習慣病予防健診を中心に、健康増進や疾病の早期発見など、受診者の方に安心して満足いただける健診を提供しています。

また、外国人患者が安心して医療サービスを受けられるよう、JMIP（外国人患者受入医療機関認証制度）の認証機関として医療提供体制を整えていますが、急増する外国人患者のニーズに対応し、受入体制を適切に維持・改善していることが評価され、令和 7 年 2 月には再認証を取得しました。

赤十字の事業の一つであり、私達の使命である災害救護については、福岡県地域災害医療センター及び福岡県 DMAT 指定医療機関に指定されており、自治体等が主催する各種救護訓練や、福岡県支部が主催する災害救護訓練への参加等、平時から災害に備えて訓練を重ね、職員の意識、救命技術の向上に努めています。令和 6 年 11 月と令和 7 年 2 月には、警固断層にて震度 7 の地震が発生した想定で災害訓練を行い、総勢 100 名を超える職員が参加して、負傷者の受け入れの流れや動線を確認しました。今後も災害に備えて訓練を重ね、職員の意識、救命技術の向上に努めてまいります。

国際救援については、令和 6 年 8 月から国際赤十字・赤新月社連盟タイ・カンボジア・ラオス・ベトナム国クラスター事務所保健要員に看護師 1 名、令和 7 年 1 月からバングラデシュ南部避難民保健医療支援事業に看護師 1 名を派遣し、国際赤十字・赤新月社連盟の一員として任務を全うしました。

他の医療機関との連携については、「病診・病病連携連絡協議会」を開催し、当院の診療科紹介や意見交換等、地域の医療従事者の皆様と直接顔の見える連携を図りました。また、月2回の地域医療連携 web セミナーの配信を通じて、地域医療支援病院としてその機能向上に努めてきました。

さらに、市民参加型講座の「ぱりよか講座」の定期開催、産地の新鮮な農産物を販売する「産直マルシェ」の開催、音楽奉仕団による「トワイライトコンサート」開催など、様々な方法で地域住民との交流を図っています。



外国人患者受入医療機関認証制度（JMIP）の再認証



バングラデシュ南部避難民保健医療支援事業



災害訓練



災害訓練



病診・病病連携連絡協議会



産直マルシェ

(2) 今津赤十字病院

当院は、神経難病・脳卒中・認知症疾患を持つ高齢者への診療を柱とする福岡市西区・糸島医療圏の公的医療機関として、「地域医療の貢献」、「全人的医療」、「医療と福祉の架け橋」を基本方針とし、地域住民に安心・信頼される医療サービスの提供に努めています。

国は、団塊の世代が75歳以上となる2025年（令和7年）を目指し、高齢者の尊厳の保持と自立生活の支援を目的に、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、地域の包括的な支援・サービス提供体制（地域包括ケアシステム）の構築を推進しています。この中で、特に増加する傾向にあると言われている認知症については、内科合併症を持つ患者が多いことから、内科と精神科が密な連携を図れるという当院の強みを活かした多面的な視点による治療を行いました。

また、この地域包括ケアシステムの一翼を担うため、地域活動として健康講座等を行っています。平成30年11月から今津公民館と共に開催している「いまづカフェ」は、地域の方が気軽に立ち寄れて、お茶を飲みながらおしゃべりを楽しみ、ゆっくりとした時間を過ごせる憩いの場として定着しています。隔月開催で当院の看護師や作業療法士等による健康相談や創作活動、タクティール®ケアをはじめ、講演やコンサートなど様々な企画を行いました。

訪問看護ステーションでは、24時間対応型の在宅医療の要として、地域の診療所と連携を密にし、乳幼児から身体・精神に障害のある高齢者に至るまで幅広い疾患や年齢層の利用者に対する在宅支援を行いました。

令和6年度は、幸いに医療救護班を派遣するような大きな災害は発生しませんでしたが、定期的にこころのケア等の研修を行うなど、常に赤十字病院としての使命を全うできるよう努めました。



地域活動「講演」



いまづカフェ「タクティール®ケア」



いまづカフェ「コンサート」



こころのケア研修

(3) 嘉麻赤十字病院

当院は、嘉麻市唯一の公的医療機関として、二次救急告示指定病院及び在宅療養支援病院の役割を担い、地域の医療需要に対応するため、周辺の急性期病院、診療所、福祉施設等と連携を図りながら、急性期から回復期医療、訪問診療から在宅介護に至るまで、幅広いサービスの提供に努めています。

また、地域住民が住み慣れた地域で安全・安心な暮らしを実現するため、付帯施設として訪問看護ステーション、居宅介護支援センター、通所リハビリテーション、24時間在宅ケアステーションを備え、医療・介護・予防・生活支援を一体的に提供する地域包括ケアシステムの推進に力を入れています。

令和6年度は、常勤の糖尿病内科専門医1名及び呼吸器内科専門医1名を新たに確保し、診療体制の更なる充実を図りました。在宅療養支援病院として在宅サービス部門と連携し、住民に対して地域医療・看護・介護の一体的なサービス提供に努めるとともに、公的医療機関として、発熱症状の救急患者を含め、夜間休日の救急搬送患者も積極的に受け入れました。

院内では、病院研究発表会や各部署で勉強会を開催するなど医療の質の向上に努め、地域との交流では、認知症の方やその家族、地域住民、専門職などが気軽に集まり、情報交換や相談、疾病の理解、介護者の負担軽減を目的とした「オレンジサロン」を毎月開催し、健康ミニ講座や予防リハビリ体操、健康相談など、地域住民の健康と認知症予防を促進する活動を行いました。

保健予防活動では、オプション検査の拡充など健診事業を強化するとともに、乳がんの早期発見を目的とした「マンモグラフィサンデー」を年2回開催し、早期発見・早期治療の重要性を広く啓発しました。

その他、福岡県看護協会が主催する「ふれあい看護体験」を開催し、看護職に興味を持つ地元の高校生に実際の看護業務を体験してもらうなど、医療への理解を深める取り組みも行いました。



福祉施設との連携会議



オレンジサロン



病院研究発表会



ふれあい看護体験

2. 病院の体制

令和7年3月31日現在

区分 施設名	病床数					診療科目	職員数				
	一般	療養	精神	感染	計		年度	医師	看護師	その他	計
福岡赤十字病院	509	—	—	2	511	内科・呼吸器内科・循環器内科・消化器内科・肝臓内科・血液・腫瘍内科・糖尿病・代謝内科・内分泌内科・腎臓内科・感染症内科・脳神経内科・神経内科・外科・呼吸器外科・心臓血管外科・消化器外科・乳腺・内分泌外科・移植外科・整形外科・脳神経外科・形成外科・精神科・小児科・皮膚科・泌尿器科・産婦人科・眼科・耳鼻いんこう科・リハビリーション科・放射線科・麻酔科・救急科・歯科・歯科口腔外科・病理診断科・リウマチ科	令和6年度	234 (49)	556 (3)	407 (17)	1,197 (69)
							令和5年度	221 (34)	567 (7)	384 (18)	1,172 (59)
今津赤十字病院	90	30	60	—	180	内科・神経内科・胃腸科・精神科・リハビリテーション科・循環器科・放射線科	令和6年度	12 (6)	96 (10)	92 (24)	200 (40)
							令和5年度	13 (6)	96 (8)	93 (23)	202 (37)
嘉麻赤十字病院	135	—	—	—	135	内科・呼吸器内科・循環器内科・消化器内科・糖尿病内科・神経内科・小児科・外科・肛門外科・整形外科・眼科・精神科・耳鼻いんこう科・泌尿器科・皮膚科・リハビリテーション科・放射線科	令和6年度	57 (48)	76 (7)	121 (26)	254 (81)
							令和5年度	51 (43)	77 (8)	104 (16)	232 (67)
計	734	30	60	2	826		令和6年度	303 (103)	728 (20)	620 (67)	1,651 (190)
							令和5年度	285 (83)	740 (23)	581 (57)	1,606 (163)

() は臨時職員・パート(内数)

3. 患者状況

(1) 入院

区分 施設名	年 度	取扱患者数		一日平均 患者数	平均在院 日数	病床利用率 (%)	診療単価 (円)
		新患者数	延 数				
福岡赤十字 病 院	令和 6 年度	15,889	170,827	468.0	10.5	92.5	88,844
	令和 5 年度	15,517	164,149	448.5	10.3	88.8	90,801
今津赤十字 病 院	令和 6 年度	372	53,951	147.8	119.1	82.1	23,040
	令和 5 年度	359	53,534	146.3	113.8	81.3	23,453
嘉麻赤十字 病 院	令和 6 年度	668	33,322	91.3	49.0	68.6	29,045
	令和 5 年度	696	32,780	89.6	45.8	67.3	29,220
計	令和 6 年度	16,929	258,100	707.1	—	—	—
	令和 5 年度	16,572	250,463	684.4	—	—	—

(2) 外来

区分 施設名	年 度	取扱患者数		一日平均患者数	平均通院日数	診療単価(円)
		新患者数	延 数			
福岡赤十字 病 院	令和 6 年度	24,516	235,286	968.3	9.6	22,577
	令和 5 年度	25,390	237,111	975.8	9.4	22,308
今津赤十字 病 院	令和 6 年度	347	15,607	64.5	45.0	11,734
	令和 5 年度	398	16,612	68.6	41.7	12,805
嘉麻赤十字 病 院	令和 6 年度	4,114	44,025	181.2	10.7	12,037
	令和 5 年度	4,101	43,556	179.2	10.6	12,147
計	令和 6 年度	28,977	294,918	1,241.7	—	—
	令和 5 年度	29,889	297,279	1,223.6	—	—

10 血液事業

血液事業は、血液を提供いただける方を募集し、その血液を採取して血液製剤を作り、治療を必要とする方々のため医療機関へ血液製剤を供給するという一連の流れを担っています。

国内で使用される輸血用血液製剤は、健康な方々から無償で血液を提供いただく『献血』により作られており、国、都道府県や市町村をはじめ、多くの企業やボランティア、国民の皆さまの協力により成り立っています。

医療機関の需要を予測して献血へのご協力を願いし、適切な血液量を確保したうえで、医療機関に安定的に血液製剤を届ける必要があることから、献血者確保が最重要課題であり、献血思想の普及を図るため様々な活動を推進しています。

1. 血液センターの事業概要

(1) 献血者確保

ア. 若年層対策

より若い年代から献血に触れ合う機会を増やすため、青少年触れ合い事業の一環として「はたちの献血キャンペーン」にてキッズ献血（模擬体験）を行いました。また、小学校及び高等学校においては献血セミナーを行うことで献血への理解を深めていただく活動を行いました。

大学では、学生献血推進協議会の合同研修会を開催し、改めて献血の重要性や知識を深化させ、SNSを活用した情報発信を積極的に行うなど若年層の献血者確保に努めました。

その他、学生献血推進協議会が中心となり、「博多どんたく港まつり」や「学生献血サマーキャンペーン」、「全国学生クリスマス献血キャンペーン」、「はたちの献血キャンペーン」等のイベントを開催するなど、様々な活動を展開し、県民に向けて広く普及活動を行いました。

イ. 複数回献血者の確保

令和4年9月から全国一斉に献血Web会員サービス「ラブラッド」の公式アプリが導入され、献血サービスの向上を目的に新規会員の登録者確保に努めました。献血依頼やキャンペーン情報をWEB会員へ配信することで、不足時（在庫不足）の献血者確保並びに献血予約率の向上に繋がりました。（福岡県内登録者数 約16.9万人 令和7年3月現在）

ウ. スポーツ団体との献血啓発活動

福岡ソフトバンクホークス主催の「ファイト！九州デー」、Jリーグに協賛する明治安田生命保険相互会社主催の「シャレンで献血」等、スポーツ団体とタイアップし試合に併せ献血を実施し、新たな献血者層の開拓に努めました。

エ. 献血功労者表彰式

福岡県内において、血液事業の推進に貢献した地域組織、事業所、学校、団体等に対して表彰式を行い、献血推進に対する意欲向上に努めました。



はたちの献血
(キッズイベント)



学生ボランティアによる献血呼びかけ
(「博多どんたく港まつり」パレード)



イベント会場での献血バスにおける全血献血
(クリスマスキャンペーン)



献血功労者表彰式

(2) 血液製剤の安定供給

医療機関における輸血用血液製剤の使用状況等の情報を収集・分析し、精度の高い需給予測を行い、安定供給に努めました。また、適正な供給体制に向けて緊急走行による配送の低減や定時配送への促し、院内の血液製剤在庫数の見直しや血液製剤発注システム（WEB 発注システム）の利用促進にも取り組みました。

(3) 地域医療機関への技術協力制度

福岡県合同輸血療法委員会の作業部会として、タスクフォース委員会と看護師部会が設置され、輸血医療に携わる臨床検査技師、看護師を対象とした輸血研修会を開催しています。令和6年度は、看護師部会が主となり、学会認定看護師を対象とした輸血研修会を開催しました。

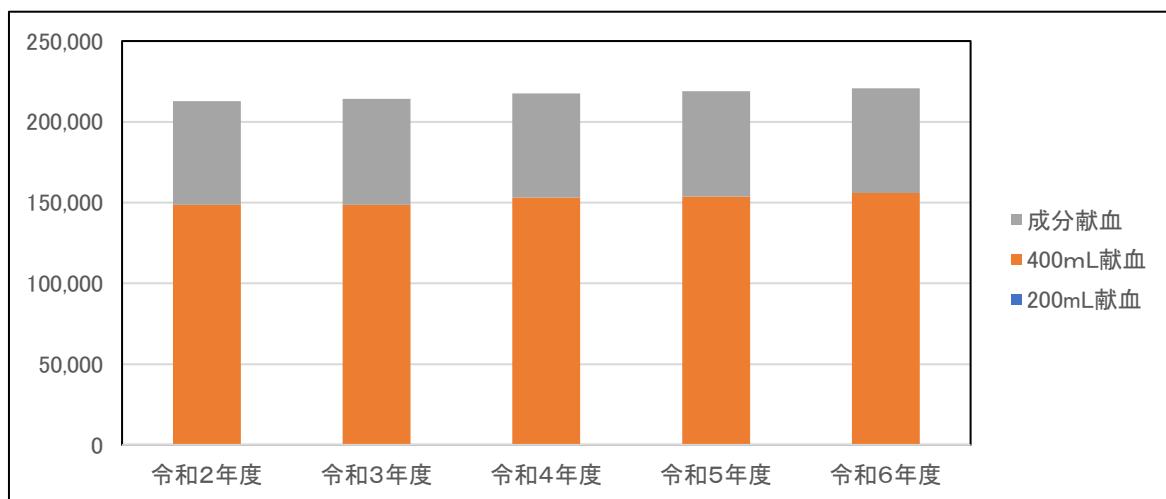
2. 福岡県内における献血及び供給の状況

(1) 献血状況

ア. 献血者の実績

令和6年度の福岡県における献血者数は220,641人で対前年度比100.8%でした。献血ルームにおいて400mL献血の確保強化を図るなど、輸血用血液製剤の安定確保に努めました。

献血者数	(人)	(%)
	前年比	
200mL	65	231
400mL	148,546	148,329
成 分	64,262	65,621
計	212,873	214,181
	471	568
	153,267	152,530
	64,275	64,395
	218,938	217,493
	220,641	212,873
	118.9	100.8
	101.4	99.2

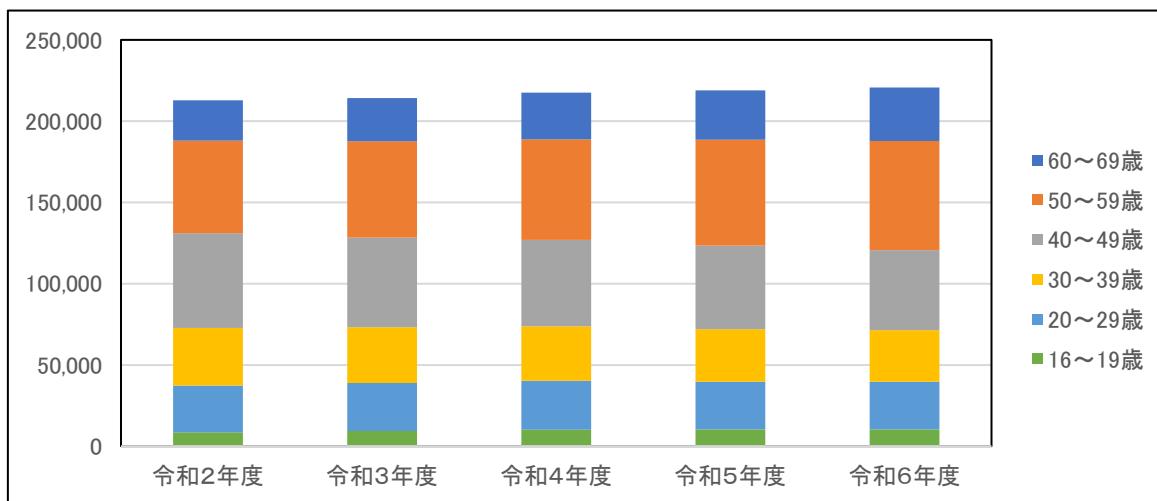


イ. 年代別献血者の推移

福岡県の年代別献血状況は、令和5年度と比較して、大学献血における献血者数が増加し、10～20代の献血者は増加しましたが、リモートワークの定着等による影響もあり、30～49歳の各年代で献血者が減少しました。一方、商業施設での実施回数が増えたことで、50歳以上の各年代では増加しました。

年代別献血者数 (人) (%)

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	前年比
16～19歳	8,560	9,381	10,025	10,293	10,365	100.7
20～29歳	28,765	29,580	30,295	29,309	29,387	100.3
30～39歳	35,482	34,258	33,449	32,320	31,553	97.6
40～49歳	58,220	55,150	53,113	51,370	49,244	95.9
50～59歳	56,885	59,255	61,991	65,230	67,332	103.2
60～69歳	24,961	26,557	28,620	30,416	32,760	107.7
計	212,873	214,181	217,493	218,938	220,641	100.8

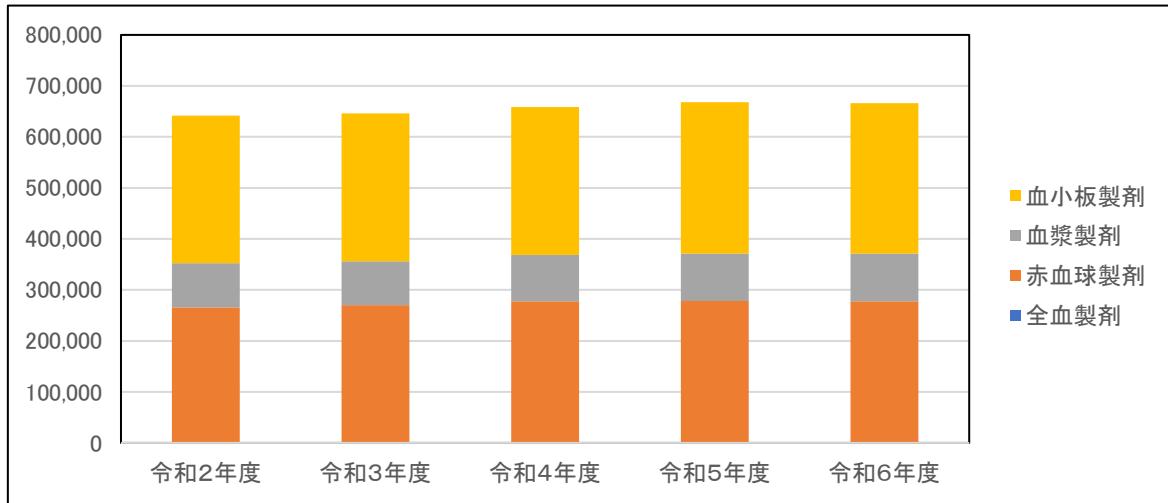


(2) 供給状況

福岡県の輸血用血液製剤の供給状況は、令和3年度から増加に転じていきましたが、今年度は減少に転じました。血液内科領域での新たな治療法が確立されたことが要因と考えられます。

供給単位数 (200mL換算単位) (%)

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	前年比
全 血 製 剤	0	0	0	0	0	0.0
赤 血 球 製 剤	266,003	269,824	277,734	278,075	277,578	99.8
血漿 製 剤	86,527	86,466	90,639	92,837	93,587	100.8
血小板 製 剤	288,995	290,130	290,135	297,415	295,075	99.2
計	641,525	646,420	658,508	668,327	666,240	99.7



(3) 医薬情報活動の状況

福岡県内の医療機関に対して、輸血用血液製剤の適正使用や取扱い等の説明会及び輸血療法に関する情報提供を積極的に実施し、医療安全に努めています。令和6年度は、要請があった医療機関で開催しました。

○令和6年度 医療機関への説明会

開催数	22回
参加総数	530人

○第28回福岡県合同輸血療法委員会

福岡県保健医療介護部薬務課主催「福岡県合同輸血療法委員会」は、福岡県庁にて集合型会議での開催となりました。

開催日	令和7年3月13日（木）
開催方法	集合型会議
テーマ	「在宅輸血における病診連携」
参加施設数	98施設
主催	福岡県保健医療介護部薬務課

3. 職員数の状況

毎年度、血液事業本部からその事業規模に応じた職員数が定められ（職員定数）、その範囲内で事業運営をすることになっています。

	管理	総務	品質	医務	献血 推進	採血	学術 供給	健診医 など	計
令和 6年度	4 (0)	15 (2)	2 (0)	3 (1)	84 (36)	112 (11)	66 (47)	29 (29)	315 (126)
令和 5年度	4 (0)	14 (2)	3 (0)	3 (1)	84 (36)	112 (12)	66 (48)	30 (30)	316 (129)

（ ）は、各年度末の非正規職員数（内数）

11 社会福祉事業

特別養護老人ホームは、依然として厳しい経営環境にある中、引き続き感染症対策の徹底や、更なる人材確保や育成を図り、利用者の方々が安全・安心で快適に生活できるよう経営基盤の強化に努めています。

また、良質な介護サービスの提供を行うため、介護現場のICT化や資質向上に向けた介護研修への受講を推進しました。

1. 社会福祉施設の事業概要

(1) 特別養護老人ホーム大寿園

ア. 魅力あふれる施設づくりと情報発信

(ア) 感染防止対策を継続しつつ、コロナ禍で停滞していたボランティアの受入や園内行事を活発に行う等、利用者の生活に活気が戻るように努め、その様子をリニューアルしたホームページや新たに開設したInstagramで情報を隨時発信。

イ. 介護職員の人材確保と育成

(ア) 福祉系大学や専門学校を訪問して求人活動、就職セミナーや会社説明会に参加。

(イ) 良質な介護サービス提供と職員のスキルアップを図るため、外部研修への職員の派遣やWEB研修の受講、施設内実技研修を実施。

ウ. 利用者の安全性の向上

(ア) 老朽化した施設設備の更新や、見守りカメラを導入し、事故を未然に防ぐ等、利用者が安心して暮らすことができる環境づくりを実施。

エ. 経営の安定化

(ア) 介護、看護が連携したケアを提供し、入院を最小限に抑え、円滑なベッドコントロールにより空床状態を解消し、利用率向上に向けた取り組みを実施。



大寿園の集い（敬老会）



西ブロック運動会

(2) 特別養護老人ホームやすらぎの郷

ア. 各部門（特養・ショート・デイサービス）での利用者確保

- (ア) 安定的な利用者確保のため、デイサービスから特養の利用まで、切れ目ないサービスを受けられる施設であり、“看取り介護”が可能な施設であることのPRを継続実施。
- (イ) 地域包括支援センター・居宅介護支援事業所のケアマネジャー等との連携を強化し、デイサービス・ショートステイの利用率の向上。

イ. 利用者の安全性及びサービスの向上・職場環境の改善

- (ア) 嘴託医・協力医療機関と連携し健康維持に努め、看護師や介護福祉士による日頃の健康観察を十分に行い、入院のリスクを減少。
- (イ) 新型コロナウイルス及びインフルエンザ等の感染症に対する感染防止対策の徹底。
- (ウ) 見守りカメラを活用し、入所者の活動傾向を検証して転倒防止と安全性の向上。
- (エ) リクライニング機能が充実した介護ベッドを活用し、嚥下機能が低下している入所者の誤嚥性肺炎予防と介護職員の食事介助の負担を軽減。

ウ. 地域との連携及びボランティア活動の強化

- (ア) 志免町「認知症初期集中支援チーム」の一員として当施設の主任ケアマネジャーが参画、地域における認知症等の早期発見および対応に貢献。
- (イ) 宇美商業高等学校や地域の幼稚園の施設訪問を受入れ、利用者との交流活動を実施。
- (ウ) 公開講座「第8回もっとクロス講座“地域と老いを考える会”」を開催。介護者のためのストレスマネジメントをテーマに地域住民を招いて実施。
- (エ) 志免町赤十字介護奉仕団「ふきのとう」による利用者の生活をサポートするボランティアや地域の方々による施設内の清掃ボランティアの受入れを実施。

エ. 職員研修の充実と促進

- (ア) 認知症介護の質の向上を目的とした認知症介護実践者研修や認知症介護リーダー研修の受講を継続して推進。
- (イ) 介護課程を通じた職員のスキルアップのための介護福祉士実習指導者講習会を受講させるなど研修を充実。



志免町赤十字介護奉仕団「ふきのとう」
ボランティア活動



幼稚園の施設訪問

(3) 特別養護老人ホーム豊寿園

ア. 新型コロナウイルス感染症他各種感染症の予防

- (ア) 感染症発生に伴う各棟職員クロス回避（動線交差回避）を徹底するとともに、事前チェック用の抗原検査キットを全職員へ配付
- (イ) 感染予防を徹底した面会（未就学児禁止、居室棟外での事前予約制）の実施

イ. 利用者サービスの向上と職場環境の改善

- (ア) 見守り機器及び監視カメラの有効活用による利用者の転倒防止と職員の夜間巡回の負担軽減
- (イ) 特養棟内のエアコン一斉洗浄による利用者環境の改善
- (ウ) ICT 機器の活用による LINE Works 導入とスムーズな情報伝達の実施

ウ. 介護職員の安定確保

- (ア) 高等学校福祉科との連携と実習生の受け入れ
- (イ) 本社福祉サービス事業交付金を活用した有料求人広告媒体の積極的活用
- (ウ) シニア層に特化したパートタイマー職員の雇用展開

エ. 職員の資質向上のための取り組み

- (ア) 介護職員のスキルアップのため、認知症介護実践者研修等への受講を継続して推奨
- (イ) 介護支援専門員資格の取得に向けた勉強会の開催やテキスト代等の助成
- (ウ) 赤十字救急法指導員養成講習への受講勧奨

オ. ボランティアと地域福祉の連携強化

- (ア) 社会福祉協議会や地域小中学校との連携再開と、出前講習の実施
- (イ) 地域の保育園児、小学校児童との交流会の再開
- (ウ) 支部から要請のあった救急法等短期講習への指導員積極的派遣



地域交流

(地域保育園への利用者様訪問・交流会)



地域交流

(地域小学校への福祉体験授業)

2. 社会福祉施設の体制

令和7年3月31日現在

区分 施設名	サービス内容・定員数	職員数					
		年度	事務職	介護職	看護職	その他	計
大寿園	特別養護老人ホーム 150人	令和6年度	6 (1)	65 (16)	9 (6)	24 (19)	104 (42)
	ショートステイ 8人						
	デイサービス 30人	令和5年度	7 (2)	64 (18)	9 (6)	28 (22)	108 (48)
	ケアプランセンター —						
やすらぎの郷	特別養護老人ホーム 100人	令和6年度	6 (0)	54 (15)	7 (2)	14 (11)	81 (28)
	ショートステイ 20人						
	デイサービス 35人	令和5年度	6 (0)	55 (13)	6 (1)	19 (16)	86 (30)
	ケアハウス —						
	ケアハウス 20人						
豊寿園	特別養護老人ホーム 100人	令和6年度	6 (2)	43 (4)	5 (0)	25 (22)	79 (28)
	ショートステイ 20人						
	デイサービス 12人	令和5年度	6 (2)	45 (4)	6 (0)	21 (20)	78 (26)
	ケアプランセンター —						
計	特別養護老人ホーム 350人	令和6年度	18 (3)	162 (35)	21 (8)	63 (52)	264 (98)
	ショートステイ 48人						
	デイサービス 77人	令和5年度	19 (4)	164 (35)	21 (7)	68 (58)	272 (104)
	ケアハウス —						
	ケアハウス 20人						

臨時職員・パート(内数)

3. 利用者状況

区分 施設名	サービス内容	令和6年度			令和5年度		
		延利用者数	一日平均利用者数	利用率(%)	延利用者数	一日平均利用者数	利用率(%)
大寿園	特別養護老人ホーム	44,895	123.0	82.0	51,237	140.0	93.3
	ショートステイ	1,274	3.5	43.6	1,496	4.1	51.1
	デイサービス	4,937	16.0	53.4	6,879	24.0	80.0
やすらぎの郷	特別養護老人ホーム	37,127	101.7	101.7	36,124	98.7	98.7
	ショートステイ	4,107	11.3	56.3	3,914	10.7	53.5
	デイサービス	5,737	19.6	55.9	6,364	21.7	64.4
豊寿園	特別養護老人ホーム	34,607	94.8	94.8	35,260	96.3	96.3
	ショートステイ	3,479	9.5	47.5	4,408	12.0	60.5
	デイサービス	2,368	6.5	54.5	2,088	5.7	48.0
計	特別養護老人ホーム	116,629	319.5	-	122,621	335	-
	ショートステイ	8,860	24.3	-	9,818	26.8	-
	デイサービス	13,042	42.1	-	15,331	51.4	-

主な行事

4 月	■ 救急法基礎講習 ■ 日本赤十字九州国際看護大学入学式（宗像市）	10 月	■ 福岡市災害対策本部室運営訓練（福岡市） ■ 救急法基礎講習 ■ 救急法救急員養成講習 ■ 支部救護班総合訓練 ■ 紺綏会常任委員会議 ■ 第6ブロック赤十字奉仕団委員長会議
5 月	■ 赤十字運動月間キャンペーン ■ レッドライトアッププロジェクト ■ 救護員育成訓練（共通過程：動画視聴形式） ■ 救急法基礎講習 ■ 救急法救急員養成講習 ■ 地域包括ケア担当者会議 ■ 福岡県青少年赤十字指導者協議会総会 ■ 全国赤十字大会（東京都） ■ 地区（本部）分区赤十字担当者研修会 ■ 監査委員監査 ■ 青少年赤十字リーダーシップ・トレーニング ・センター 指導者養成講習会	11 月	■ 福岡市災害対策本部図上訓練（福岡市） ■ 福岡県防災フェア（福岡市） ■ 九州八県赤十字大会（佐賀県） ■ 福岡マラソン2024臨時救護 ■ 救急法基礎講習 ■ 救急法救急員養成講習 ■ 幼児安全法支援員養成講習 ■ 地域包括ケア担当者会議 ■ 令和6年度献血功労者表彰式（福岡市） ■ 福岡県日赤紺綏会第63回総会（福岡市） ■ 青少年赤十字国際交流集会
6 月	■ 救護班要員研修Ⅰ ■ 福岡県総合防災訓練（田川市） ■ 救急法基礎講習 ■ 救急法救急員養成講習 ■ 幼児安全法支援員養成講習 ■ 教職員対象着衣泳体験指導講習 ■ 令和6年度第1回評議員会 ■ 福岡県青少年赤十字高校連絡協議会 学習会（第1回） ■ 青少年赤十字全国指導者協議会総会・研修会 ■ 福岡県青少年赤十字指導者養成講習会（第1回）	12 月	■ 原子力災害対応研修（鹿児島県） ■ 救急法基礎講習 ■ 健康生活支援講習指導員養成講習 説明会・事前研修会 ■ 「NHK海外たすけあい」キャンペーン ■ 福岡県青少年赤十字高校連絡協議会 学習会（第2回）
7 月	■ 第60回献血運動推進全国大会（岐阜県） ■ 救急法基礎講習 ■ 救急法救急員養成講習 ■ 健康生活支援講習指導員養成講習 ■ 福岡県青少年赤十字国際交流事業【釜山受入】 ■ 福岡空港航空機事故対処訓練（福岡市）	1 月	■ 福岡県国民保護図上訓練（福岡市） ■ 救急法基礎講習 ■ 救急法救急員養成講習 ■ 救急法指導員養成講習 説明会・事前研修会 ■ 健康生活支援講習指導員養成講習 ■ 災害対策本部要員研修会（熊本県）
8 月	■ 救急法基礎講習 ■ 救急法救急員養成講習 ■ 福岡県青少年赤十字リーダーシップ・トレーニング・センター（福岡市・北九州市） ■ 九州ブロック青少年赤十字指導者養成講習会 ■ 福岡県青少年赤十字高校連絡協議会総会 ■ 福岡県青少年赤十字指導者養成講習会（第2回）	2 月	■ 救急法基礎講習 ■ 救急法指導員養成講習 ■ 健康生活支援講習・幼児安全法指導員研修会 ■ 地区（本部）分区赤十字担当者会議 ■ 令和6年度第2回評議員会（文書審議） ■ 全国救護班研修（久留米市） ■ 福岡県青少年赤十字研究会
9 月	■ 救急法基礎講習 ■ 救急法救急員養成講習 ■ 水上安全法救助員I養成講習 ■ 健康生活支援講習指導員養成講習 ■ 赤十字救急フェスティバル（粕屋町） ■ 日本赤十字社全国支部事務局長会 ■ 社業振興特別委員会（福岡市） ■ 相続・遺言・寄付セミナー	3 月	■ 救急法基礎講習 ■ 救急法救急員養成講習 ■ 救急法新任指導員研修会 ■ 健康生活支援講習新任指導員研修会 ■ 救急法・水上安全法指導員研修会 ■ 永年勤続者表彰式 ■ 紺綏会常任委員会議 ■ 日本赤十字九州国際看護大学卒業式（宗像市） ■ 福岡県青少年赤十字高校連絡協議会年度末集会 ■ 青少年赤十字スタディー・センター

支部管内施設

令和7年4月1日現在

支 部

施設名	事務局長	所在地	電話番号
日本赤十字社福岡県支部	後藤 和孝	〒815-8503 福岡市南区大楠3-1-1	092-523-1171
久留米赤十字会館		〒839-0801 久留米市宮ノ陣3-4-27	0942-36-5858

病 院

施設名	院長	所在地	電話番号
福岡赤十字病院	中房 祐司	〒815-8555 福岡市南区大楠3-1-1	092-521-1211
今津赤十字病院	藤井 弘二	〒819-0165 福岡市西区今津377	092-806-2111
嘉麻赤十字病院	波多江 健	〒821-0012 嘉麻市上山田1237	0948-52-0861

血液センター

施設名	所長	所在地	電話番号
福岡県赤十字血液センター	熊川 みどり	〒818-8588 筑紫野市上古賀1-2-1	092-921-1400
福岡県赤十字血液センター 北九州事業所		〒806-0044 北九州市八幡西区相生町15-1	093-631-1211
献血ルーム おっしょい博多		〒812-0012 福岡市博多区博多駅中央街2-1 博多バスターミナル8階	092-476-1400
献血ルーム キャナルシティ		〒812-0018 福岡市博多区住吉1-2-25 キャナルシティ・ビジネスセンタービル1階	092-272-5853
献血ルーム 天神西通り		〒810-0001 福岡市中央区大名1-15-1 天神西通りスクエア 地下1階	092-726-1188
献血ルーム 魚町銀天街		〒802-0006 北九州市小倉北区魚町1-3-3	093-551-1211
献血ルーム くろさきクローバー		〒806-0036 北九州市八幡西区西曲里町3-1 イオンタウン黒崎1階	093-644-1211

社会福祉施設

施設名	園長	所在地	電話番号
特別養護老人ホーム大寿園	荒木 ひとみ	〒819-0165 福岡市西区今津520	092-806-6100
特別養護老人ホームやすらぎの郷	横山 慶一	〒811-2208 粕屋郡志免町大字吉原600	092-936-2022
特別養護老人ホーム豊寿園	森 務	〒800-0112 北九州市門司区大字畠1808-5	093-481-1121

看護大学

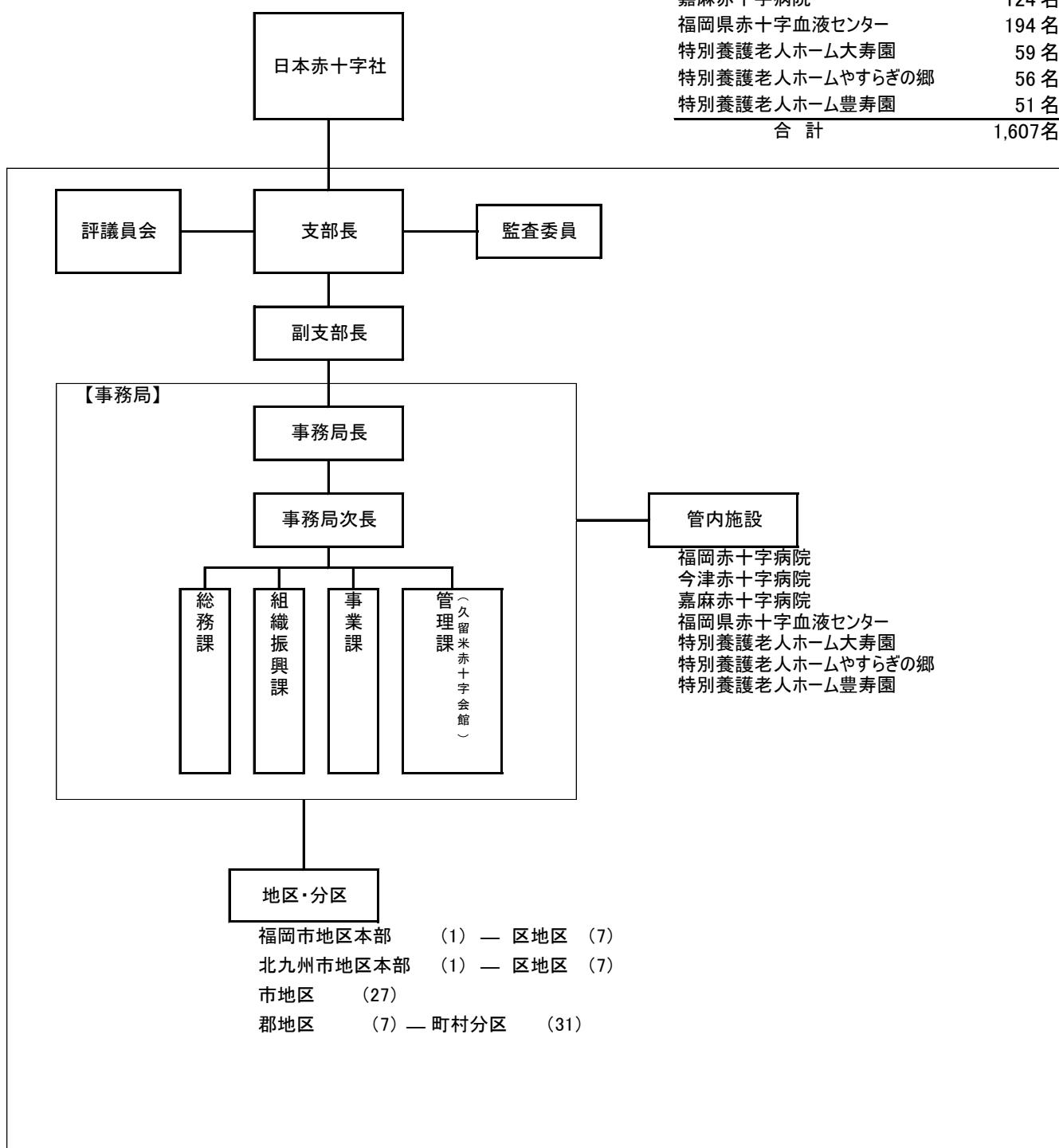
施設名	学長	所在地	電話番号
学校法人日本赤十字学園 日本赤十字九州国際看護大学	池松 裕子	〒811-4157 宗像市アステイ1-1	0940-35-7001

支部機構

令和7年4月1日現在

【正職員数】

日本赤十字社福岡県支部	20名
福岡赤十字病院	965名
今津赤十字病院	138名
嘉麻赤十字病院	124名
福岡県赤十字血液センター	194名
特別養護老人ホーム大寿園	59名
特別養護老人ホームやすらぎの郷	56名
特別養護老人ホーム豊寿園	51名
合計	1,607名



【関係団体】

日本赤十字九州国際看護大学

【本社直轄施設】

日本赤十字社九州ブロック血液センター

支部役員名簿

令和7年4月1日現在

評議員(67名)

役職	氏名
支部長	服部 誠太郎
副支部長 (2名)	大曲 昭恵
	田中 克尚
監査委員 (2名)	森山 敦文
	平島 研二
本社理事 (1名)	豊馬 誠
本社代議員 (9名)	高島 宗一郎
	武内 和久
	井上 澄和
	美浦 喜明
	川野 栄美子
	豊馬 誠
	瀧田 繁晴
	津村 洋一郎
	日向 祥剛

No.	氏名
1	山地 正樹
2	北原 明彦
3	瀧田 繁晴
4	平野 能章
5	三亜 幹治
6	高島 宗一郎
7	武内 和久
8	川野 栄美子
9	池松 裕子
10	藤田 秀之
11	平田 成人
12	中村 順也
13	井口 宏樹
14	内藤 玲子
15	大倉野 良子
16	三宅 宏治
17	大園 喜代香
18	谷延 正夫
19	島本 喜多江
20	井上 保之
21	中村 啓子
22	日々 谷 健司
23	北原 正利
24	奥野 静人
25	大石 紀代子

No.	氏名
26	喜洲 淳哉
27	林田 祐子
28	池永 紳也
29	太田 康子
30	石川 達郎
31	浜 和枝
32	重石 悟
33	横溝 敏子
34	松鳥 哲也
35	村津 正祐
36	武井 政一
37	井上 節子
38	村上 卓哉
39	金子 健次
40	簗原 悠太朗
41	西田 正治
42	江藤 義行
43	工藤 政宏
44	後藤 元秀
45	福田 浩
46	平井 一三
47	井上 澄和
48	井本 宗司
49	加地 良光
50	伊豆 美沙子

No.	氏名
51	楠田 大蔵
52	月形 祐二
53	田辺 一城
54	福井 崇郎
55	権藤 英樹
56	塙川 秀敏
57	林 裕二
58	赤間 幸弘
59	松嶋 盛人
60	武末 茂喜
61	安川 茂伸
62	波多野 茂丸
63	永松 鎮生
64	田嶋 浩俊
65	広松 栄治
66	道 廣幸
67	新川 久三

支部沿革

年月日	あゆみ
明治21年12月17日 12月28日	福岡県兵事課内に委員部設置（委員長に安場保和知事就任） 第1回の社員章及び締盟状授与式を行う（正社員130名）
明治27年9月7日 10月	福岡県委員部が支部に昇格（初代支部長に岩崎小二郎知事就任） 支部に速成看護婦養成所設立
明治29年11月7日	支部第1回社員総会を開く 佐野社長の大演説あり（社員3,500名出席）
明治33年10月	赤十字表札を作つて社員の門戸に掲示する (後に全国的に普及することとなる)
明治35年5月16日	支部庁舎新築落成式
明治37年2月15日	篤志看護婦人会福岡支会発会式（初代支会長に深野次子知事夫人就任） 福岡支部所管の第114救護班（看護人組織）22名仁川に出発 (日本赤十字社が戦地に救護班を派遣した最初である)
明治39年2月	日露戦争救護活動終了 (福岡支部から医師8、薬剤師3、婦長9、看護婦46、看護人44、計113名派遣)
明治40年7月20日	田川郡豊国炭坑ガス爆発（230名死亡。50名負傷）に支部救護班派遣
明治43年4月	支部第2回社員総会へ閑院總裁官殿下ご台臨
大正3年11月17日	第1回篤志看護婦人会福岡支会総会も同時に開催、閑院宮妃殿下ご台臨
大正5年11月11日	支部召集第84救護班24名を青島に派遣
大正9年5月20日 5月 11月8日	天皇陛下を迎え福岡県下で陸軍特別大演習が実施され、支部は7個救護班を編成して演習に参加 全国に先駆け県下全市郡の巡回診療を開始 門司、若松に診療所開設（全国でわずか5診療所開設） 陸軍特別大演習が福岡、大分県下で実施、築上郡東吉富村に救護所3ヶ所を設置
大正11年11月	戸畠診療所開設
大正12年9月1日	関東地方に大震災発生、支部救護班は2日に出発、3日に入京し救護にあたる 4日に後続2個班出発（医師6、看護婦33、事務3、計42名 取扱患者延19,721名） (全国44支部・83ヶ班・患者実数562,380名・救護員4,466名)
10月	福岡支部に少年赤十字誕生
昭和4年7月1日	今津村所在結核療養所を5万円で買収、今津療養院と改称 (45床、職員14名、初代院長に秋武六一郎就任)
8月2日	夏季児童保養所を初めて開設
昭和5年3月30日	日本赤十字社総裁閑院宮戴仁親王殿下のご台臨を仰ぎ、ご親授式並社員大会、青少年赤十字大会開催（20,000名参加）
昭和6年8月	鞍手郡宮田町に宮田診療所開設
昭和6年9月	門司市庄司元町に門司診療所開設
昭和7年1月5日 3月7日 3月17日	満州事変に対し福岡支部から第5臨時救護班を編成、朝鮮龍山陸軍病院へ派遣（25名） 臨時第12救護班（大分支部編成）に福岡支部から看護婦2名が参加亀川海軍病院へ派遣 中支上海に13救護班派遣
10月30日	閑院宮殿下を迎へ有功章など御親授式を行う
昭和8年4月	遠賀郡岡垣村に岡垣診療所開設
4月	行橋隣保館を福岡県より移管、行橋診療所及び行橋保育所を開設
5月	日本赤十字社総裁閑院宮戴仁親王殿下のご台臨を仰ぎ御親授式、今津療養院ご視察
6月	福岡市須崎町支部構内に福岡診療所開設
7月	門司市大里に大里診療所開設
昭和9年9月	福岡支部病院建設のため福岡市永田町25番地に田畝19,611坪を購入整地す（1坪4円50銭当）
昭和10年9月	京都郡犀川町に犀川診療所開設
昭和11年9月 12月	企救郡曾根町に曾根診療所開設 支部社員数10万人を突破する
昭和12年3月	田川郡伊田町に伊田診療所開設
6月	若松市老松町に若松診療所開設
8月17日	第84救護班召集編成病院船に派遣（班員28名）
9月25日	第85救護班編成中支那上海兵站病院に派遣（班員24名） 第114救護班召集編成上海兵站病院に派遣（班員24名） 第161救護班召集編成小倉陸軍病院へ派遣（班員22名）
9月	大牟田市に集団赤痢発生8支部より救護班派遣（死者400名、罹患10,000名を越す）
10月	動員下令に基づき召集編成、病院船、陸軍病院、満州、北支、中支、ビルマ等へ夫々救護班を派遣
昭和13年4月	嘉穂郡山田町に建築中の診療所竣工、支部に移管、山田診療所として発足
昭和14年4月	今津赤十字病院に乙種救護看護婦養成所開設
昭和14年6月	京都郡泉村に中山診療所開設

年月日	あゆみ
昭和15年11月	支部社員総会へ徳川園順社長出席
昭和16年11月6日	徳川社長を迎え、特別社員総会を開く（来会6,000名）
12月8日	第2次世界大戦起こる この年、2救護班を満州と南方に派遣
昭和17年10月31日	総裁梨本宮妃殿下を迎へ篤志看護婦人会福岡支会第3回会員大会開く
昭和17年12月	支部社員数20万人を突破す。この年救護班3班を南方へ派遣
昭和18年7月1日	この年、5救護班を満州、華北へ派遣。支部社員数30万人を越える
昭和19年5月	小倉市三萩野に小倉診療所開設
昭和20年6月19日	この年、6救護班を内地陸海軍病院へ派遣
8月15日	米軍機空襲により福岡市灰燼と化し支部焼失 支部事務所を高宮公会堂に移し、後、住吉小柳町石橋鉄工所2階に移す 大東亜戦争終結。当支部が昭和12年7月から内外地に派遣した救護班は32ヶ班1,223名（大阪支部に次ぐ多数）
昭和22年3月	この年、4救護班を国立筑紫病院外派遣（戦時救護収拾のため）
7月	中山、岡垣両診療所廃止
8月22日	家庭看護法、救急法、水上安全法の普及講習会再開
12月	現在地に100坪のパラック建支部事務所を建築移転
昭和23年3月	支部事務所の一部に福岡診療所を開設
4月	今津赤十字病院乙種救護看護婦養成所閉鎖（養成数129名）
9月8日	支部敷地の内10,000坪を高宮中学校建設用地に売却（200万円也）
11月29日	小倉市第一中学校青少年赤十字団結成 10月田川郡糸田小学校3年1組結成
昭和24年2月3日	福岡市原小学校青少年赤十字団結成
11月	山門郡柳城中学校青少年赤十字団（170名）結成
12月	三潴郡木佐木村八丁牟田に三潴診療所開設
昭和25年2月11日	支部庁舎完成（木造2階建延116坪）移転
5月	支部庁舎新築落成式挙行 島津社長出席
7月	大里診療所、門司市大里に建物を購入移転
昭和26年	浮羽郡竹野村に竹野診療所開設
7月	支部構内に製薬所を建築、薬物研究所発足
8月	糸島郡前原町に糸島診療所開設
昭和27年10月	宗像郡岬村に岬診療所開設
昭和28年6月26日	定款の改正により、福岡県支部に改称
昭和29年12月	西日本水害発生、筑後川流域及び遠賀川地区ほか13救護班派遣
昭和30年3月	関東以西各県支部より救恤品処理応援を受ける
3月	島津社長1週間に亘り被害現地を視察
3月	福岡赤十字病院内に血液銀行開設
昭和32年7月	京都郡勝山町に黒田診療所開設
昭和33年4月	支部救護資材倉庫建築
昭和34年11月30日	支部救護員宿泊施設建設
昭和35年5月8日	西九州水害のため長崎県南高来郡多比良町へ救護班派遣
昭和36年3月6日	福岡赤十字高等看護学院第1回生入学
3月31日	名誉総裁皇后陛下、副総裁秩父宮妃殿下のご台臨を仰ぎ、九州七県支部連合赤十字大会開催
11月30日	福岡県日赤紹綏会発会式（クラブ九州にて）
昭和37年1月	名誉副総裁秩父宮妃殿下のご台臨を仰ぎ、九州各県支部連合災害救護演習を実施（久留米市）
3月	上清炭坑ガス爆発救護班派遣、72名死亡
10月20日	玄海島出張診療所を福岡市へ移管
昭和38年6月	名誉副総裁秩父宮妃殿下のご台臨を仰ぎ、第1回青少年赤十字福岡県大会開催（千代小学校）
7月	竹野診療所廃止
8月	門司、曾根両診療所廃止
11月9日	福岡県赤十字血液銀行開設
昭和39年2月	若松診療所廃止
2月	大里診療所廃止
5月1日	福岡赤十字病院へ移管の三潴、糸島両診療所廃止
6月	三井三池炭鉱爆発事故発生に対し救護班派遣
昭和39年11月	集団赤痢発生、市立荒津病院へ看護婦派遣
昭和40年6月17日	岬、久留米助産院、福岡薬物研究所廃止
7月	胃集団検診開始
	集団赤痢発生、宗像町、古賀町伝染病院へ看護婦派遣
	黒田診療所廃止
	名誉副総裁秩父宮妃殿下のご台臨を仰ぎ、第2回青少年赤十字福岡県大会開催
	小倉診療所廃止

年月日	あゆみ
昭和41年1月9日	第1回福岡県献血運動推進大会開催 犀川診療所廃止
昭和41年3月3日	行橋保育所を行橋市へ移管
昭和41年7月1日	北九州赤十字血液センター新築開設
昭和42年11月12日	北朝引揚帰還協定契約満了に伴い各市町村窓口を閉鎖
昭和43年3月1日	行橋診療所廃止
昭和44年5月8日	高松宮妃殿下のご台臨を仰ぎ、九州七県支部連合赤十字大会を開催
昭和45年9月1日	子宮癌集団検診開始
昭和45年2月4日	八幡診療所廃止
昭和46年3月22日	日本航空よど号乗取り事件発生、乗客の安全確保のため板付空港に2日間救護班派遣 福岡県赤十字血液センター新築移転（須崎ビル）
昭和47年11月30日	福岡赤十字病院本館落成
昭和49年10月31日	三笠宮妃殿下ご台臨のもと九州八県支部連合赤十字大会を開催
昭和50年8月27日	大韓赤十字社釜山直轄市支社と姉妹協定締結
昭和51年11月17日	常陸宮妃殿下ご台臨を仰ぎ、支部社屋並びに災害救護センター落成
昭和52年4月4日	本社創立100周年を期して支部長期事業計画策定
昭和53年7月26日	山田市にベトナム難民収容施設「大法園」開設（園長 伊藤愛助）
昭和54年10月19日	高松宮妃殿下ご台臨を仰ぎ、支部創設90周年記念赤十字大会を開催 北九州赤十字血液センター新築移転（八幡西区）
昭和55年4月1日	特別養護老人ホーム「大寿園」開設
昭和57年4月1日	支部第2次長期5ヶ年計画策定 日赤各地区へ災害救護車の配備始まる
昭和59年10月9日	福岡赤十字病院奉仕団結成（団員21名）
昭和60年4月1日	福岡県赤十字血液センター新築移転（筑紫野市）
昭和62年7月31日	青少年赤十字メンバー1名をタイ・ネパールへ派遣 ~8月17日迄
昭和63年10月16日	ネパール保健衛生事業の指導のため、福岡赤十字看護専門学校江田柳子教師を派遣 ~昭和63年4月17日迄
昭和63年3月31日	ベトナム難民収容施設「大法園」閉園
昭和63年4月9日	今津赤十字病院落成
昭和63年5月27日	日本赤十字社福岡県支部創設百周年赤十字大会を開催
昭和63年9月10日	支部創設100周年記念「赤十字国際救護チャリティコンサート」を開催
昭和64年10月31日	青少年赤十字再建40周年記念全国大会（静岡県・YMCA東山荘）に参加 ~11月2日迄
昭和64年11月29日	赤十字奉仕団創立40周年記念全国奉仕活動研究大会（東京都）に参加 ~30日迄
平成元年7月24日	皇太子殿下 今津赤十字病院ご訪問
平成元年11月7日	福岡県日赤紹絆会創立30周年記念総会開催
平成元年11月8日	九州八県支部連合赤十字大会開催
平成元年12月16日	中国民航機ハイジャック救護のため福岡空港へ救護班派遣
平成2年6月13日	献血ルーム「はかた祇園」開所
平成3年3月31日	献血ルーム「くるめ1番街」開所
平成4年11月1日	第7回青少年赤十字福岡県大会（福岡市・中央市民センター）
平成5年5月8日	統一ボランティアDAY'93開催（第1回）
平成5年7月29日	全国赤十字老人ホーム連絡協議会（太宰府） ~31日迄
平成5年9月26日	ホームヘルパー研修講師海外研修のため支部職員1名をアメリカ・カナダへ派遣 ~10月9日迄
平成6年11月16日	福岡県日赤紹絆会創立35周年記念総会（九州厚生年金会館）
平成7年1月17日	兵庫県南部地震発生（阪神・淡路大震災）
平成7年10月16日	神戸市へ第1次～第6次医療救護班延べ52名派遣 ~2月19日迄
平成8年2月8日	特別養護老人ホーム「大寿園」増改築工事竣工
平成8年3月3日	福岡赤十字病院腎センター落成
平成8年5月30日	中国紅十字会救急法交流団訪中 ~10日迄
平成8年6月13日	特別養護老人ホーム「やすらぎの郷」落成
平成9年3月4日	福岡空港ガルーダ・インドネシア航空機墜落事故（救護班24名派遣）
平成9年5月29日	第6ブロック支部国際交流事業（フィリピン派遣） ~7日迄
平成9年10月25日	特別養護老人ホーム「豊寿園」落成
平成10年11月1日	日本赤十字社創立120周年記念国際救護チャリティーコンサート（アクロス福岡）
平成10年11月18日	青少年赤十字創設75周年及び第9回青少年赤十字福岡県大会（大楠小学校）
平成10年12月6日	日本赤十字社福岡県支部創設110周年・福岡県赤十字奉仕団創設50周年記念大会並びに 福岡県日赤紹絆会第39回総会（アクロス福岡）
平成11年6月28日	地雷犠牲者救援チャリティー写真展（ソラリアプラザ 入場者11,351名） ~24日迄
	九州八県支部連合赤十字大会（電気ビル）
	福岡県赤十字視察団（中国江蘇省派遣） ~12日迄
	地雷犠牲者救援チャリティー写真展（久留米市）

年月日	あゆみ
8月2日	地雷犠牲者救援チャリティ写真展（大野城市）～6日迄
11月10日	福岡県日赤紺綏会第40回総会（電気ホール）
12月24日	日本赤十字九州国際看護大学起工式
平成12年1月28日	地雷犠牲者救援チャリティ写真展（八幡東区）
6月28日	（財）福岡県市町振興協会より受託の2級ホームヘルパー養成研修開始
12月21日	日本赤十字九州国際看護大学設置認可
平成13年3月29日	日本赤十字九州国際看護大学及び講堂棟合同竣工式
31日	福岡県と特別養護老人ホーム大寿園用地の売買契約書締結（平成13年7月4日登記済）
4月5日	日本赤十字九州国際看護大学入学式（114名）
5月22日	山田ホームヘルパー研修センター竣工
6月29日	久留米赤十字会館（仮称）起工式
平成14年3月8日	福岡赤十字看護専門学校閉校
4月28日	元日本赤十字社福岡県支部救護看護師ナイチングール記章受賞者高瀬松子氏葬儀
5月7日	日本赤十字社創立125周年記念日韓交流チャリティーコンサート～10日迄
16日	日本赤十字社法制定50周年・日本赤十字社創立125周年記念全国赤十字大会
27日	日本赤十字九州国際看護大学学生奉仕団「オリーブ」結団式
6月17日	久留米赤十字会館定礎式
7月18日	久留米赤十字会館オープ記念式典（名誉副総裁寛仁親王妃信子殿下ご臨席）
31日	2002アジア太平洋青少年赤十字研修会へ日本赤十字九州国際看護大学生及び職員3名を韓国ソウルへ派遣～8月5日迄
10月3日	韓国赤十字社職員及び政府公務員17名視察研修のため来福～4日迄 (支部・やすらぎの郷・福岡市役所)
平成15年1月6日	大韓赤十字社テグ広域市支社青少年赤十字メンバー83名訪問
2月5日	大韓赤十字社インチョン支部青少年赤十字メンバー35名訪問
26日	甘木市立蟠城小学校青少年赤十字結成50周年記念式典
3月10日	H.E.L.P in JAPAN 2003 開催（日本赤十字九州国際看護大学）～28日迄
20日	赤十字介護フォーラムin福岡（アクロス福岡）
平成16年1月30日	イラン南東部地震被災者救援事業のため福岡赤十字病院橋本看護師派遣～2月23日迄
3月8日	介護フォーラムin北九州開催（小倉北区）
3月13日	イラン南東部地震被災者救援事業のため福岡赤十字病院河口看護師派遣～3月30日迄
6月1日	福岡県赤十字血液センター一天神中央出張所（イムズ8F）オープン
7月1日	福岡県赤十字血液センター博多出張所（キャナルシティ）リニューアルオープン
10月28日	新潟県中越地震災害救護のため医療救護班派遣（計2班・13名）～11月8日迄
10日	新潟県中越地震災害救護のため「こころのケア」指導員(2名)派遣～11月18日迄
12日	福岡県日赤紺綏会創立45周年記念総会（電気ホール）
18日	フィリピン赤十字社代表団(4名)受入～21日迄
27日	特別養護老人ホーム大寿園25周年式典（シーホーク）
平成17年1月24日	中国紅十字会血液代表団(4名)受入
3月1日	スマトラ島沖地震・津波被災者救援事業へ福岡赤十字病院川口看護師、山本主事派遣（E R U第5班）～4月13日迄
20日	福岡県西方沖地震発生 福岡県支部医療救護班第1班（救護員7名）を玄界島へ派遣
21日	福岡市九電記念体育館内救護所にて医療救護活動（救護員総数106名）～4月1日迄
21日	志賀島での巡回診療（救護員7名）
21日	福岡市西区西浦にて巡回診療（救護員総数10名）～23日迄
24日	福岡市西区西浦救護所にて医療救護活動（救護員総数41名）～4月7日迄
21日	こころのケアを実施～4月26日迄 (福岡市東区志賀島 3月23日迄 救護員総数3名、 九電記念体育館 4月26日迄 救護員総数45名)
10月24日	パキスタン北部地震被災者救援事業へ福岡赤十字病院橋本看護師派遣～12月18日迄
11月4日	パキスタン北部地震被災者救援事業へ福岡赤十字病院川口看護師派遣～12月28日迄
12月6日	スーダン紛争犠牲者支援事業へ福岡赤十字病院井ノ口看護師派遣～平成18年6月11日迄
12月20日	パキスタン北部地震被災者救援事業へ日本赤十字九州国際看護大学石田助手派遣～平成18年2月16日
平成18年1月6日	H.E.L.P in JAPAN 2006（日本赤十字九州国際看護大学）～24日迄
8月3日	プライマリー・ヘルスケア事業（フィリピン共和国）～福岡赤十字病院西野看護師派遣～11月14日迄
11月30日	九州八県支部連合赤十字大会（福岡国際会議場）
平成19年1月4日	ケニア洪水救援事業へ福岡赤十字病院井ノ口看護師派遣～2月18日迄
7日	dERU納車
12月5日	日本赤十字社九州血液センター竣工式（久留米市宮の陣）
平成20年1月17日	インドネシア海外保健医療支援事業へ福岡赤十字病院井上医師派遣～3月10日迄
18日	H.E.L.P in JAPAN 2008（日本赤十字九州国際看護大学）～3月7日迄

年月日	あゆみ
6月5日	インドネシア海外保健医療支援事業へ福岡赤十字病院久富看護師派遣～9月28日迄
12月4日	福岡県支部創設120周年記念事業「日本赤十字社所蔵名品展」開催（福岡県立美術館）～21日迄
6日	嘉麻赤十字病院70周年記念イベント（嘉麻市）
16日	福岡県支部創設120周年記念赤十字大会・福岡県日赤紺綏会第49回総会（アクロス福岡）
平成21年8月1日	小倉魚町出張所オーブン記念式典
24日	アフガニスタン・ミルワイス地域病院支援に福岡赤十字病院井ノ口看護師派遣～平成22年2月26日迄
10月22日	福岡赤十字病院起工式
11月7日	福岡赤十字青年奉仕団50周年記念事業（支部）
18日	福岡県日赤紺綏会創立50周年記念総会（北九州市：ウェルシティ小倉）
平成22年2月22日	ハイチ大地震救援に福岡赤十字病院井上医師派遣～3月31日迄
4月20日	ハイチ大地震救援に福岡赤十字病院川口看護師派遣～5月24日迄
6月15日	福岡赤十字病院立柱式
10日	日本赤十字九州国際看護大学開学10周年記念式典（看大・玄海ロイヤルホテル）
11月3日	パキスタン洪水災害救援事業に福岡赤十字病院井ノ口看護師派遣～12月7日迄
平成23年1月8日	ウガンダ病院支援事業に福岡赤十字病院井上医師派遣～5月1日迄
2月11日	アフガニスタン・ミルワイス地域病院支援に福岡赤十字病院井ノ口看護師派遣～平成23年5月21日迄
3月11日	東日本大震災発生
12日	医療救護班を石巻赤十字病院（宮城県）へ派遣（救護員17名）～3月17日迄 石巻赤十字病院および宮城県内の避難所にて医療救護活動
21日	医療救護班を石巻赤十字病院（宮城県）へ派遣（計2班・救護員15名）～3月27日迄
22日	献血ルーム「おっしょい博多」オープニングセレモニー（博多バスターーミナル）
25日	医療救護班を石巻赤十字病院（宮城県）へ派遣（計9班・救護員62名）～5月17日迄
5月15日	東日本大震災救護活動等パネル展示（ソラリアプラザ）～19日迄
19日	医療救護班を石巻赤十字病院（宮城県）へ派遣（計2班・救護員12名）～6月6日迄
26日	ハイチ大地震被災者支援事業に福岡赤十字病院橋本看護師派遣～平成24年1月23日迄
6月27日	東日本大震災救護活動等パネル展示（ソラリアプラザ）～29日迄
7月9日	カンボジア救急法普及支援事業最終評価（岩井事業部長 カンボジア派遣）～16日迄
8月1日	AKB48赤十字キャンペーン（福岡サンパレス）
21日	東北復興応援フェア・トークショー（JR博多駅）～25日迄
27日	東北復興応援フェア・トークショー（JR小倉駅）～30日迄
29日	H.E.L.P in JAPAN 2011（日本赤十字九州国際看護大学）～9月16日迄
平成24年8月25日	福岡県赤十字血液センター創立50周年記念式典（アクロス福岡）
11月27日	新救護倉庫・公用車庫完成
平成25年2月26日	朝倉市立蟠城小学校JRC加盟60周年記念式典
21日	福岡赤十字病院竣工落成式
7月5日	第49回献血運動推進全国大会（福岡市 福岡国際会議場）
平成26年7月12日	ミャンマー紛争犠牲者救援事業に福岡赤十字病院井ノ口看護師派遣～平成27年3月4日迄
8月22日	ウガンダ北部医療支援事業に福岡赤十字病院井上医師派遣～11月30日迄
9月15日	ウガンダ北部医療支援事業に福岡赤十字病院川口看護師派遣～平成27年2月8日迄
11月14日	福岡県日赤紺綏会第55周年記念総会（ヒルトン福岡シーホーク）
12月17日	献血ルーム「くろさきクローバー」オープニングセレモニー
平成27年7月3日	ネパール地震救援・復興支援事業に福岡赤十字病院川口看護師派遣～7月31日迄
7日	ネパール地震救援・復興支援事業に福岡赤十字病院井上医師派遣～8月5日迄
平成28年4月14日	熊本地震灾害（余震）発生
16日	医療救護班を熊本県へ派遣（救護員8名）～4月15日迄
16日	熊本地震灾害（本震）発生
平成29年7月5日	医療救護班を熊本県へ派遣（計7班・救護員47名）～6月2日迄
6日	九州北部豪雨発生
12日	医療救護班を東峰村宝珠山地区および小石原地区へ派遣（計2班・救護員14名）～7月7日迄
11月24日	朝倉市避難所2か所に夜間健康支援及びこころのケア要員を述べ125名派遣～8月17日迄
12月6日	バングラデシュ南部避難民救援事業のため福岡赤十字病院橋本看護師派遣～平成30年1月11日迄
平成30年6月22日	バングラデシュ南部避難民救援事業のため福岡赤十字病院井ノ口看護師派遣～平成30年4月12日迄
7月5日	南スーダン紛争犠牲者支援事業に福岡赤十字病院井ノ口看護師派遣～12月24日迄
9日	平成30年7月豪雨発生
10日	医療救護班を広島県へ派遣（計2班・救護員14名）～7月16日迄
11月21日	バングラデシュ南部避難民救援事業に福岡赤十字病院川口看護師派遣～10月15日迄
平成31年2月20日	福岡県支部創設130周年赤十字大会・福岡県日赤紺綏会第59回総会（ヒルトン福岡シーホーク）
4月22日	福岡赤十字病院音楽奉仕団（寺坂委員長）による赤十字トワイライトコンサート実施

年月日	あゆみ
令和元年8月27日 29日 9月16日 10月10日 11月16日 12月18日 令和2年1月31日 2月20日 3月31日 4月1日 4月20日 5月7日 7月3日 5日 令和3年2月28日 3月31日 9月6日 10月1日 10月26日 令和4年3月2日 4月4日 10月15日 11月19日 令和5年7月3日 7月7日 15日 令和6年1月1日 4日 30日 2月3日 7日 5月20日 7月15日 9月2日 令和7年1月12日	令和元年8月豪雨発生 医療救護班を佐賀県へ派遣（計2班・救護員16名）～8月30日迄 ネパール・コミュニティ防災事業の成果確認のため、福岡県支部坂下主事派遣～9月27日迄 令和元年度日赤紺綏・有功会会長協議会総会（ホテル日航福岡） 第16回青少年赤十字福岡県大会開催（支部・大楠小学校） 福岡県日赤紺綏会創立60周年記念総会（北九州市：リーガロイヤルホテル小倉） 久留米赤十字在宅サービスセンター事業廃止 医療救護班第1班（救護員6名）を横浜港停泊中のクルーズ船へ新型コロナウイルス感染症 対応のため派遣～2月22日迄 久留米赤十字ケアプランセンター廃止 地元放送局とタイアップによる広報活動を行う（令和2年度） 新型コロナウイルス感染症に係る宿泊療養施設の宿泊療養者の医療支援 救護員延べ12名派遣～5月6日迄 緊急事態宣言発出に伴い学童支援のためのハートラーム開設（～27日迄） 令和2年7月豪雨発生 医療救護班を熊本県へ派遣（計5班・救護員31名）～7月23日迄 赤十字防災・献血キャンペーン実施（博多口駅前広場） 久留米赤十字会館温水プール・フィットネス事業廃止 献血ルーム「天神西通り出張所」オープニングセレモニー オンライン講習の運用開始 ハイチ地震救援事業に福岡赤十字病院川口看護師派遣～12月5日迄 「ウクライナ人道危機救援金」受付開始 県内各地にてボランティア及び職員による街頭募金実施 パレスチナ赤新月社医療支援事業に福岡赤十字病院前澤看護師派遣～9月30日迄 バングラデシュ南部避難民保健医療支援事業に福岡赤十字病院橋本看護師派遣 ～令和5年4月13日迄 青少年赤十字創設100周年記念大会「第17回青少年赤十字福岡県大会」（大楠小学校） パレスチナ赤新月社医療支援事業に福岡赤十字病院松田医師派遣～10月30日迄 令和5年7月豪雨発生 救護員（看護師・主事）を東峰村へ被災者や現地で活動するボランティアの健康観察のため派遣 (救護員22名)～7月29日迄 能登半島地震災害発生 医療救護班を日本赤十字社石川県支部（石川県）へ派遣（救護員46名）～2月5日迄 石川県輪島市・七尾市内の避難所にて医療救護活動 日赤災害医療コーディネートチームを日本赤十字社石川県支部（石川県）へ派遣 (救護員3名)～2月3日迄 石川県支部（災害救護実施対策本部）で医療救護班の派遣調整 バングラデシュ南部避難民保健医療支援事業に福岡赤十字病院橋本看護師派遣～2月20日迄 こころのケア班を日本赤十字社石川県支部（石川県）へ派遣（救護員4名）～2月13日迄 石川県七尾市内の自治体職員に対するこころのケア活動 バングラデシュ南部避難民保健医療支援事業に福岡赤十字病院橋本看護師派遣～6月10日迄 バングラデシュ南部避難民保健医療支援事業に福岡赤十字病院橋本看護師派遣～12月31日迄 国際赤十字・赤新月社連盟タイ・カンボジア・ラオス・ベトナム保健支援事業に 福岡赤十字病院水谷看護師派遣～令和7年9月1日迄（予定） バングラデシュ南部避難民保健医療支援事業に福岡赤十字病院橋本看護師派遣～1月31日迄

令和 6 年度 事業報告書

令和 7 年 5 月 16 日 発行

発行 日本赤十字社福岡県支部
〒815-8503 福岡市南区大楠 3-1-1
TEL 092 (523) 1171 (代表)
FAX 092 (521) 2552
H P <https://www.jrc.or.jp/chapter/fukuoka/>